



Sunrise Ministry

アンカー

Anchor



アメリカ経済危機
大赤字!

アメリカに変化“日の出”の時が来たか?!

マタイ5章48節 — 完全について —

古代エジプト史におけるヨセフ

42号

2009年 1月

アメリカに変化

“日の出”の時が来たか？！

アメリカが変化すると世界が変化する！日本も変化する！
変化から激変へ！

「変化が訪れた」オバマ氏、勝利演説

2008年11月5日14時32分

ソーシャルブックマーク FB Twitter Print



シカゴでの集会に姿を見せ、支持者の声援にこたえるオバマ氏=AP

【ワシントン=小村田義之】米国の次期大統領に選ばれた民主党のオバマ上院議員は4日深夜（日本時間5日午後）、地元シカゴで支持者を前に勝利演説し、「米国民は今夜、我々は一つの合衆国なのだ」というメッセージを世界に発信した。変化が米国に訪れた。この勝利はあなた方のものだ」と宣言し、10万人近い観衆が歓呼で迎えた。

オバマ氏は「(リンカーン米大統領の言った)『人民の人民による人民のための政治』は、なお減びていないと証明した」と述べ、草の根の選挙運動を支えたボランティアの努力をたたえた。そのうえで「世界に対する新しい米国の指導力の夜明けが近づいている」と語った。

またしてもアメリカに大変化が訪れた。今年2008年11月の大統領選挙だ。世界第一帝国のアメリカで初めての黒人大統領が誕生した！前代未聞のことである！

■大衆の渴望に答えるオバマ新大統領

なぜ、オバマ氏が大統領選に勝ったのか？今、アメリカの大衆は「変化」を渴望して揺れ動いている。オバマはそれに見事に救世主かのように応えたのだ。呼応したのだ。



■ アメリカに変化「日の出」の時が来たか？！

ちょうどかつてのドイツのように。ヒットラーはドイツが最も貧窮状態に落ち込んでいた時に救世主として現れた。しかし、彼がドイツにもたらした変化は、世界を震撼させるものであった。オバマがアメリカにそのようなことをするとは私は言っていない。ただ、彼の大統領就任期間にどのように今までになかった変化がもたらされるかは分からないが、近い将来アメリカには大変化が起こると言える。

彼の演出は共和党のマケインをずっと凌いでいた。彼のスピーチはまるでリンカーン大統領の再現であった。彼の演説は、病めるアメリカばかりでなく、世界の人々に感動と期待を与えた。

彼の演説のキーワードは「**change=変化、変革**」であった。

彼は選挙運動中、アメリカ国家、また大統領の紋章も変えたそうだ。これがアメリカ大統領の紋章である。わしが右手に 13 のオリブの葉(平和)、左手に 13 の矢(軍事力)をつかんでいる。13 はアメリカ合衆国の最初の州を表している。そのまわりを 50 の星が囲っている。それは現代の 50 州を表している。わしの頭の上には **E pluribus Unum = Out of Many** “多くから一つ”と書いてある。多くの植民地、州、民族から成る一つの国家という意味。



彼が使ったシンボルはわしの胸の部分アメリカ合衆国の星条旗から「**Rising Sun=昇る日、日が昇る**」に変えている。その上には **Vero Possumus.** =“Yes, we can. 我々にはできる”と書いてある。



Below, you can see Obama's new plane removed the Northwest Airlines American flag and put a rising sun in its place. It's already been jokingly called "O-Force One"



It's also interesting to note that Bill Clinton has now become Obama's biggest supporter, another partner for the "rising sun." Interesting.



彼は、専用の飛行機も塗り替えた。今までのノースウエストのシンボルであったアメリカ国旗を除いてその代りに日の出(朝日)を置いている。ノースウエスト機の前方、また後方にも「**Rising Sun=昇る日、日が昇る**」を入れた。実に興味深い。オバマは、米大統領候補時代も当選した現在も、専用機でいくつかの国々を回っているそうだ。

彼が使ったこのシンボルについては後述することにしよう。

なぜ、アメリカ国民は、これほど「変化」を求めたのだろうか！
それは、「カウボーイ大統領」「戦争大統領」の政策の失敗の結果、国民の生活はもろに打撃を受け、苦境に陥ったからである。アメリカの国としても、もうどうしようもない程の危機的状態になったからである。経済大恐慌が来るとすれば、それが来る前にこの苦境を乗り越えるさまざまな策を講じるであろう。1930 年の大恐慌のように。フーバー大統領が大恐慌に落ち込む直前、1929 年 10 月に「アメリカの経済は健全な基礎の上に立っている」と宣言した。が、その後である。ニューヨークの株大暴落から始まった大恐慌

諸君、
アメリカは
永遠だ！



は、アメリカはじめ全世界の経済を奈落の底に突き落とした。その時の人々の生活苦は、どんなものであったかは歴史をひもとくと分かる。大失業、自殺、略奪、娘を売ることさえあった。

■なぜ、アメリカ世論はオバマを大統領に選んだのか？

アメリカは末期癌のように病んでしまった！

1. モラルの低下—道徳退廃—古き良きアメリカの姿は消えつつある！
2. プロテスタント・アメリカに大災害続発！
3. 経済大不況に突入！
4. 戦争、災害による死者、負傷者激増！
5. 相次ぐテロの脅威！
6. 急激な株暴落、ドル安！



■経済的な要因だけを考えてみよう。

近年アメリカは、どれほどの金を消費したであろうか。膨大な財政赤字、貿易赤字、家計赤字はもう收拾がつかなくなった。

今日、サブプライム問題、リーマン・ブラザーズの破綻、ビッグ・スリー(GM、フォード、クライスラー自動車会社)倒産寸前の問題等はアメリカばかりでなく、全世界、そして日本の経済にも大打撃を与えていることは毎日のニュースに出ている。

アメリカの国の赤字は、12月12日現在で10兆2000億ドルとニューヨークの「借金時計」に出ている。

なぜ、アメリカ経済はこれほどの苦境に陥ったのであろうか？

1. 相次ぐ大災害復旧のために
2. 戦争による赤字
3. 株暴落、ドル安
4. 国民の消費生活様式＝クレジット生活というのは何でもカードで借りて生活すること。
5. 福祉ばらまき政策 —アメリカで福祉を受けている人たちの肥満とスーパーでの贅沢な買い物にはあいた口がふさがらないことを私も見せられた。



■戦争の費用

戦争に費やす金額はどれほどのものであろうか。

ちなみにイラク戦争だけでもどれだけの費用がかかったか見てみよう。

経済学者ジョセフ・E・スティグリッツ教授と、元米商務省主席財務官でハーバード大学ケネディ・スクール教授のリンダ・J・ブルムスによる最新共著『Three Trillion Dollar War: The True Cost of the Iraq Conflict』より

■ アメリカに変化「日の出」の時が来たか？！

イラク戦争費用のうち、すでに支出した金額が
5,260 億ドル (約 53 兆 8,297 億円) :
1 日あたりのイラク駐留費用が
2 億 7,500 万ドル (約 280 億 8,951 万円) :
1 ヶ月あたりのイラク・アフガニスタン駐留費用
160 億ドル (約 1 兆 6,530 億円) :
アメリカ国民 1 世帯あたりのイラク戦争負担金額
4,100 ドル (約 41 万 8,915 円) :
イラク戦争の長期的費用見積額
3 兆ドル (約 306 兆 5,240 億円) :



■ 金額だけではない。どれだけの人間をアメリカは失い、負傷させたか。

イラクで戦死した米軍兵士の人数、2008 年 3 月 23 日時点で **4,000 人超** :
イラク軍事侵攻開始から現在までに戦闘で負傷した米軍兵士の人数 **3 万 1,325 人** :
戦闘以外の負傷、もしくは病気扱いになったイラク駐留米軍兵士の人数 **7 万人** :
イラク・アフガニスタンの戦闘で聴覚障害を負った米軍兵士の人数 **33 万人** :
2009 年度に治療が必要となるイラク・アフガニスタン退役米軍傷病兵の人数 (米退役軍人局の見積) **7,924 人** :
2001 年のアフガニスタン侵攻から 2005 年末の間、アフガニスタンもしくはイラクに派遣された後に自殺した米軍兵士の人数。 **283 人** のうち 144 人が、戦地から帰還し軍を正式除隊した後自殺している。:
殺害されたイラク治安部隊兵士の人数最低 **8 万 1,632 人**、最大 **112 万人** :
開戦以来今日までのイラク市民の推定犠牲者数 **340 万人** :
イラク国内の難民数 **220 万人-240 万人** :
イラク国外に脱出した難民数 **5,742 人** :
2008 年 1 月 24 日までに米国が受け入れたイラク人難民数 **15 万 5,000 人** :
イラクに駐留する米軍兵士の人数 **2 万 5,595 人** (2004 年 11 月)、1 万 8,000 人(2006 年)、9,895 人 (2008 年) :

それに、2001 年のニューヨーク・テロ事件でも、おそらく **60 兆円** くらいの損害をアメリカは受けた。60 兆円とは、日本国予算の一般的経費 (実質使える金) の 1.5 倍にあたる。また本当は 60 兆円より多いかもしれない。

■ 災害復興費用に費やす費用も莫大な額である。

【2005 年 8 月末】米民間調査会社のリスク・マネジメント・ソリューションズは 2 日、米南部を直撃した超大型ハリケーン「カトリーナ」による経済的損失額は 1000 億ドル (約 11 兆円) を超えるとの予測を発表した。

■ サブプライムローンによる損失は 8000 億ドル

国際通貨基金 (IMF) は低所得者向け住宅融資 (サブプライムローン) 関連の損失が総額 8000 億ドルに達するとの試算をまとめた。

■ そしてアメリカの三大自動車会社の倒産問題

それらの民間の会社を救うためにアメリカの議会は公的資金投入の問題を論じている。なぜ、それほど重大問題か。米大手自動車会社 3 社が破綻すると、失業者は 1 年以内に 300 万人に達す

ると言われているからだ。そうなればアメリカ経済に大きな打撃を与えることは確かである。

■アメリカの失業率

エコノミスト(経済学者)は、今後の米景気の減速が深刻化し、失業率は11%まで悪化しても不思議ではないと見ている。1930年代の大恐慌の時は25%まで上がり、失業者は4人に1人と言われた。今のアメリカ経済はそこに向かってしていると危惧されている。あの贅沢なアメリカ国民のどれほどの人がテント生活を強いられることか。

アメリカの現実を見せられると心が痛む。生活を脅かされていないアメリカ国民は、なお惰眠をむさぼり痛みを感じる人は少ないであろう。しかし、目先のことでなく、向かっている前方の滝壺を見ることができたら安心はできないであろう。

今回の大統領選挙で、アメリカの大衆が“**change**”「変化」を求め、合衆国の声として示したことは、どれほど今日のアメリカが病んでいるかということの表れでもある。



それに全世界を震撼させた2001年9月11日のニューヨーク・テロ爆破事件以来、アメリカ国民は、自由よりも安全保障を求めるようになった。生活苦に、テロによる不安が加算されたのである。

■このアメリカ大統領の選挙から我々は何を学ぶことができるであろうか？

1. アメリカに近い将来一大変化が起こる。黙示録13章に預言されていたことが成就する。アメリカがそこに描写されているように、どれほど「先の獣」と仲良くなっているかを見よ。

特にレーガン大統領以来ますますローマへの接近は速度を増して、その親密度は今や切っても切れない関係になってきた。カーター、レーガン、ブッシュ、クリントン、息子のブッシュ。こうして見てみると実に黙示録13章と各時代の争闘の預言の描写のとおりである。



米国とバチカンの聖なる同盟、婚約成立

■ アメリカに変化「日の出」の時が来たか？！



ブッシュ大統領の言葉

「真に偉人の一人、ヨハネ・パウロ 2 世に栄誉を与える最上の方法は、彼の教えをまじめに受けとめ、彼の言葉を聞き、彼の言葉と教えをこのアメリカにおいて実行に移すことである。」パトリス・ザポア カトリックニュースサービス 2001/3/24



ビリーグラハムの言葉

「法王は世界で最も偉大な伝道者である」。イエス・キリストのみが救い主であることを否定。聖書やイエスを知らなくても心に神を持っている人は誰でも救われる。(ラリー・キング、ロバート・シューラーとのインタビュー、YouTube 参照)

近い将来アメリカは「龍のように物を言う」(ローマの制度を法律化する、大争闘下 161)ようになるであろう。

2. 「**Rising Sun—太陽が昇る**」を訴えるオバマ新大統領は、アメリカに「夜明け」をもたらすであろうか？

日曜休業令に向かう前兆か？

彼自身は真面目にリンカーン、ケネディー、キング牧師のようにアメリカの変革を遂行しようとするかも知れない。しかしまたしてもどんな変化が起こるか我々には知る由もない。ただ、はっきりしているのは、預言の成就から見て、オバマのシンボル「**Rising Sun—太陽が昇る**」は、どうも別な方向に行きそう。すなわち、その太陽は、日曜休業令制定という方向へ動くということだ。

荒らす憎むべきもの

イエスは、マタイ 24:15 で「荒らす憎むべきもの」に留意せよとおっしゃった。そしてダニエル書に記されていることを示唆なさった。ダニエル 12:11 にそれを見る。この言葉の意味は、「憎むべきもの」は「荒らす」。すなわち、荒廃状態をもたらす何事かであるというのである。エゼキエル 8 章に「憎むべきこと」について書いてあるが、それは偶像礼拝、特に太陽礼拝である(9、10、15、16)。「荒らす憎むべきもの」の意味は、「荒廃状態をもたらす憎むべきもの」である。

E.G.ホワイトは、そのことをアメリカにおける日曜休業令のことだと言っている：

マタイ 24:15 の「荒らす憎むべきもの」とルカ 21:20 の「エルサレムが(ローマの)軍隊に包囲される」とは同じことである。大争闘上 12 参照。

「神の民にとって今は、この世に愛情を固め、宝を蓄える時ではない。初代の弟子たちのように、われわれも、わびしい、人里離れた場所にかくれがを捜さねばならない時はそう

遠くない。ローマ軍によるエルサレム包囲が、ユダヤのクリスチャンに対する逃避の合図となったように、米国の権力を帯びて、ローマ教の安息日を強要する法令を出すようになったら、それは同じようにわれわれに対する警告となる。その時こそ、まず大都会を離れる時で、次に小さな町を離れて、山間の人里離れた所に隠れ家を求める準備となる」—教会へのあかし・第5巻・464、465 ページ

(注：日曜休業令が發布されてから都会を出よという意味ではない。日曜休業令は田舎に出る最後のしるしである。しかし、その時に都会を脱出しようと思っても難しくなる。早いうちに出ることを私の僕は勧めている。)

アメリカが神の戒めを踏みにじって、ローマの権力のしるしである日曜休業令を人々に強要するならば、アメリカ国家の破綻が来ると E.G.ホワイトは言っている。

「プロテスタント諸教会は、恐るべき迫害を耐えた彼らの先祖たちの信仰に対抗する偽りの宗教を維持するために、世俗の権力と一体となるであろう。合衆国が法令を実施し、教会の制度を支持するために、その権力を用いるまさにその時、新教の国アメリカは法王教の像を形作る。そして、国家的背教が起こり、その結果は国家的破綻をもたらすのである (ST 1910 年 3 月 22 日)。前途の危機 13。

「わが国において、神の律法が特別な意味において無効にされる時が来る。法律の制定によって、わが国の統治者たちは、日曜休業令を実施するであろう。そしてこのようにして、神の民には大きな危険がもたらされるであろう。わが国がその法律を制定する会議において、彼らの宗教上の特権に関して人間の良心を束縛する法律を制定し、日曜日遵守を強制して、第七日安息日を守る人々に対して圧制的な力を向ける。こうして事実上神の律法はわが国において無効にされるであろう。そして国家的背教は、続いて国家的破綻をもたらすのである。」 RH12-18-1888 p.785。7BC977。スタディバイブル(新)586。

「すべての生ける者にとって圧倒的に重大な事件となる時が、まもなく開かれようとしている。過去の争闘が復活されるのである。新しい争闘が起こるのである。われわれの世界で上演されようとしている場面は夢想だにできなかったことである。サタンは人間の代理人を通して働いている。憲法改正の努力をし、日曜遵守を強制する法律を確保するために骨折っている人々は、その結果がどうなるのかほとんど理解していない。危機はまさにわれわれに臨んでいるのである。」 5T753

■ 大衆の要求

「そして自由の国アメリカにおいてさえ、為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求に屈服する」大争闘下 357

世論＝大衆の要求は、どのようにつくられてきただろうか。しばしば人為的につくられるものもあった：

ローマ・カトリック

プロテスタントアメリカ

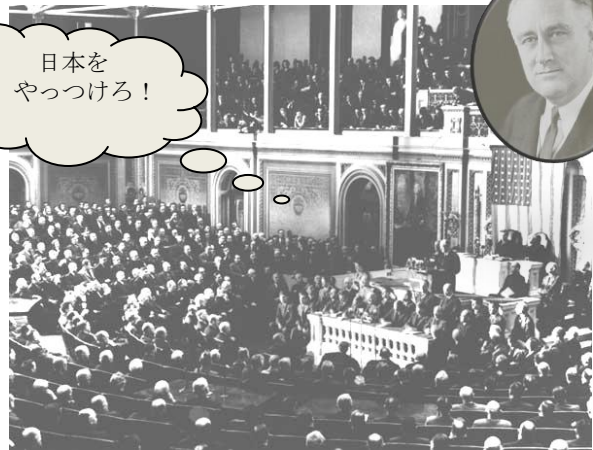


- ① ルーズベルト大統領は、世界恐慌の後、わざと日本軍によるハワイ真珠湾奇襲をさせて戦争を好まないアメリカ国民を煽り、第二次世界大戦に駆り立てた。これが第一パールハーバーと呼ばれている。

右は、ルーズベルトの1937年10月5日のシカゴ演説の光景である。

1941年12月7日、日本の真珠湾攻撃開始。

私は、真珠湾での迎撃に参加したアメリカ老兵ウィディーさんと話したことがある。彼は、犠牲にしてもいい古い大型戦艦を湾内に残して、沈没させてはいけない新型戦艦をすべて日本軍の奇襲の前夜までに移動させる任務についてたそうである。アメリカは日本軍の奇襲攻撃の秘密暗号をすでに解読していた。



日本をやっつけろ！



テロ撲滅だ！



② ブッシュ大統領は、ニューヨークテロ事件(陰謀であるらしい)の後、対テロリズム戦争(新しい形の戦争)にアメリカ国民を駆り立てた。(その時の彼の支持率は90%にも上ったという)。これが**第二パールハーバー**と呼ばれている。

イラクだ！
フセインだ！

③ 次にブッシュ大統領は、国際世論からの懐疑を覆すために対イラク戦争を宣言した。証拠もないのにイラクがテロ組織を支援している、大量破壊兵器を開発しているとして、他の国々を強引にフセイン打倒に駆り立てる。国連の支持も得ず、猪突猛進でイラクに正面衝突するようになる。アメリカの味方でない者は敵だと豪語した。これは**第三パールハーバー**と呼ばれる。



④ 長引くイラク戦争で経済的にも力を失い、多くの命が失われ、愛国心の掛け声に疲れ、とうとう、「戦争恐慌」とも言われるほどにアメリカ経済は疲弊する。その要因は、戦争だけでないことは前にも述べた。アメリカにまたしても変化を叫ぶ世論がつくられた。そこに「変化」を訴える**オバマが登場**したのである。

⑤ 今後、アメリカはこの窮地から脱却するためあらゆる手を尽くすであろう。それは一時的には成功のように見えるかもしれない。1929年にフーバー大統領が「アメリカ経済は健全」と宣言したよう

アメリカを変えてくれ！



に。しかし、それはごく一時的なパッチワークであり、その後が怖いのである。

アメリカの**無法、墮落状態**はますます深刻になり、**災害**はますます増加し、**アメリカ経済**はますます悪化する。すると**プロテスタント教会、ローマ教会、現代心靈術**は「日を昇らせよう」と日曜休業運動を推進する。そして、

「日曜安息日を犯すことは神を怒らせることであり、この罪が災害をもたらすのであって、それは日曜日遵守がきびしく実施されねばやまない、と宣言される」大争闘下 353。そこで「また、第四条の要求を主張して日曜日尊重を傷つける者は民を悩ます者であって、**神の恩寵とこの世における繁栄の回復とを妨げている**(原文から)、と宣言される」大争闘下 353。

ここにいかにアメリカが繁栄を**回復**しようと必死になっているかが分かる。ということは、現在のアメリカの大不況は日曜休業令まで続くことを示唆していないだろうか。

主の僕はこう言う：

「社会の現状の根底に横たわっているその原因を理解している人は教育家、政治家たちの中でも少ない。政府当局者も貧困、窮乏、犯罪増加の問題を解決することができない。彼らは**経済機構**をさらに完全な基礎の上に置こうとして、**むなしい努力**を払っている」ミニストリー159。

「今、神の働きのためにわずかしか投資していない資金そのものを利己的な目的に保持しているなら、それはやがて、もぐらや、こうもりに投げやることになるであろう。**金の価値**がまもなく**不意に突然下がる**であろう」(EV63)。



アメリカで緊急に金融国際会議が開かれた。

現在、アメリカや、世界で起こっていることを主の僕、E.G.ホワイトは 100 年前に見事に予言した：

「地価の急騰(**土地ブーム**)がこの国をのろっている。多額の値で購入された土地代が月賦で支払われている。宅地造成のために金を借りる。家を建てるためのお金がさらに必要となり、大きく口を開いた利子がすべての利益を飲み干してしまう。**負債**が蓄積され、**銀行が倒産**すると、**抵当物件**にされる。何千という**人々が失業**し、**家族はささいなものまでもすべてを失ってしまう**。彼らは借金に借金を重ね自分たちの財産を手放さなければならなくなり、挙句の果ては無一文で追い出されるのである。**借金**して購入したか、**負債**を負ったまま相続した農地に、多大なお金と労力がつぎ込まれる。居住者は真の所有者になる日を望み見て暮らしている。国中の**銀行が倒産**しなければ、それは実現したかもしれない。自分の土地を持ち負債のない人は幸いである。商業は落ち込み、家族は食べ物と衣服不足で苦しんでいる。仕事はない。しかし、休日は増える。娯楽に熱中する。難儀して貯めたごくわずかなお金は楽しみのために、強い酒に、また他の**道楽**に費やす。貧困を伝えながら、新聞は競馬や、さまざまな種類のスポーツに与えられる賞金を載せる。さまざまなショー、劇場、**墮落させる娯楽**は国の財産を食いつぶす。こうして**貧困はますます増**していく。貧乏人は最後の金を**宝くじ**に当たるのを期待して投資する。そして命を支えるために食べ物を乞いに出かける。多くの者が餓死する。そして多くの者が**命を断つ**。そこで終わらない。人はあなたをオレンジやレモンやその他の農園につれていく。そして働いても働いてもそれに見合う収入はない。収支がつかないことを知る農夫は子供たちを農夫にはさせまいと決心する。子供たちに土地を耕す教育をする勇氣と希望はない」 FE317-318。

まさにこのことが起こっているのではないか。E.G.ホワイトの言っていたことが成就している。G20—世界の指導者たちは「誰もがこの崩壊の影響を受けることを懸念して」11月15日にワシ

■ アメリカに変化「日の出」の時が来たか？！

ントン D.C.で緊急金融サミットを開いた。

ブッシュ大統領は、「大恐慌よりもっと大きい恐慌に陥るかもしれない」との報告に緊急に決定的な行動をとるべきであると訴えた。



指導者たちは、この突然に起こった、すべての通貨価値が同時に下落したことに頭を悩ませている。
あるネットでは、こんなことも書いてあった。「【世界金融恐慌】が勃発します。
今、チックタック、チックタックと時計が鳴り始めており、世界はいつまで、もちこたえることが出来るでしょうか？」

グリーンズパン FRB 前議長、「米国は世紀に一度の金融危機」

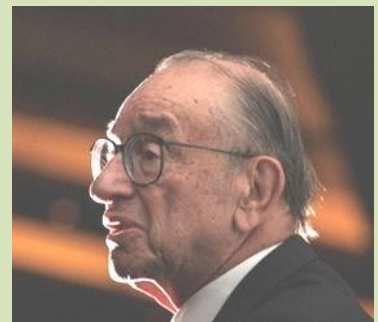
【9月15日 AFP】アラン・グリーンズパン米連邦準備制度理事会 (FRB) 前議長が13日、米国は「世紀に一度の金融危機」に陥っており、大不況を引き起こす可能性が高いと発言した。

米国の中央銀行にあたる FRB を巧みな手腕で率いたグリーンズパン氏は、現在の米国の経済状況は自らのキャリアで目にしたうちで最悪と評し、回復までにはまだ長い過程がかかり、国内住宅価格への打撃も今後続くだろうと述べた。

米 ABC テレビの番組「This Week」に出演したグリーンズパン氏は、現在の状況は「まず第1に、おそらく世紀に一度の類の大事態だという点を認識すべきだ」と強調した。また米国が景気後退を回避する可能性は 50%以上あるかと問われ「50%以下だ」と応じた。

グリーンズパン氏は「世紀に一度の金融危機が、グローバルな実体経済に甚大な影響をもたらさずに起こりうるとは信じがたい。それが今後生じる事態だと思う」と述べた。

siterock AFPBB News



経済危機、改善前に一段と悪化する可能性＝雇用統計受けオバマ氏



【ワシントン5日ロイター】オバマ次期米大統領は5日、向こう2年間での雇用創出に向けた景気刺激策の必要性を訴えるとともに、経済危機は改善前に一段と悪化する可能性があるとして述べた。

オバマ氏は、同日発表された11月の雇用統計で非農業部門雇用者数が1974年12月以来の落ち込みとなったことを受けて声明を発表。「長い時間をかけて進行してきた今回の危機に対しては、簡単かつ即効性のある処置はない。(危機は)改善する前に一段と悪化する可能性がある」と述べた。

ドイツのメンケル首相は11月26日、連邦議会で述べた：「世界的な金融危機は急激な景気減速を引き起こす」と。



今日世界各国は**急激な株価、為替、金融暴落**に危機感をつのらせている。

前に引用したように「**国家的背教(日曜休業令)が起こり、その結果は国家的破綻**」となるのである。アメリカの経済恐慌—国家破綻は、世界にも同じ状態をもたらす。そのような苦境で、世界支配をねらう者が一気にチャンスを掴むのであろう。アメリカが破綻した後で、どうして「地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣(ローマ・カトリック)を拝み、」従うように強制することができるのだろうか？もう、その時にはアメリカは、ローマの手下であるIMF(世界通貨基金)、あるいは世界銀行の言うなりになるのであろう。

なぜ、今度のアメリカの苦境が今までと同じ一過性のものでなく、終末的なものであると言えるであろうか。

■日曜休業令はアメリカでどのようなステップで作上げられていくだろうか？ 「大衆の要求」はどのように作られるだろうか？

「大争闘」第 36 章は日曜休業令に導く引き金となるのは何かということについて書いてある。下巻の 347 ページから見ると：

- ① まず、アメリカはますます**無法、放蕩、墮落**に陥る。その原因は宗教者の律法軽視である。このリベラルの思想は、SDA 教会の中にも入ってきていないだろうか。
- ② **社会道徳を大いに向上させるための、「人々が必要としている改革」**が提唱される。家族で日曜日を過ごす家族の絆が密になって犯罪は減る、健康に良い、ホームレスも少なくなる、警察官も家庭で過ごし、緊急の時だけ出動すればいい、昔のように隣近所との付き合いができる、会社や学校に行かなくなるとどれだけのガソリンが節約できるか、……いろいろな良いことづくめをあげてアメリカ国民は喜ぶであろう。「アメリカにおいては、最も目立った重要な道徳的改革の一つである禁酒禁煙運動が、しばしば日曜日遵守運動と結びつけられる」大争闘下 349。中絶反対はローマの大好きなプロパガンダである。そのために、プロテスタントもカトリックも現代心霊術も一致と平和を説いて合同運動で人々を喜ばせるであろう。
- ③ それでも**災害は止まないで、続発する**。
- ④ **経済、繁栄を回復しようとするどんな政策も功を奏しない (353)**。
- ⑤ そこでこんな結果になる：
「聖書の安息日をあがめる者は、**法と秩序の敵**であり、**社会の道徳的抑制を破り、無政府と墮落とを引き起こし、神のさばきを地上に招く者**であるといつて攻撃される。**彼らの良心的な信念は、強情、頑迷、権威に対する侮べつであると宣告される**。彼らは政府に対して**忠誠を尽くさない**といつて告発される。神の律法への義務を否定する牧師たちは、国家の権威に服従する義務は神によって定められたものであると講壇から主張する。立法府や裁判所においては、神の戒めを守る者たちについて虚偽の訴えがなされ、有罪の宣告がくだされる。彼らの言葉は誤って解釈され、彼らの動機は最も悪質なものに作りあげられる。」
- ⑥ そしてついに**大衆の声となって世論**がつくられる：
「そして自由の国アメリカにおいてさえ、**為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求**に屈服する」357。

■ アメリカに変化「日の出」の時が来たか？！

■ 世界支配のために利用される大不況—変化は激変へと変わる！

サタンが、宗教に帰る必要と日曜休業令を通して世界を救うためにこの危機を利用することが見え始めてきたのではないだろうか。

元レビュー・アンド・ヘラルド副編集長であった、ハーバート・ダグラスは断言している：

「しかしながら、黙示録 13 章の「獣」＝ローマ法王教は、全世界に自然災害と経済苦境、それに決着のつかない民族宗教間の争いを抱き合わせることによって起こされるパニック／恐慌という巧妙な手口を用いるであろう。アメリカ合衆国の威信と権力は、かつてイエスがガリラヤの嵐を鎮められたように、いかに地上の惨状、惨禍の中から助けを叫び求める全世界を一つにまとめるかというモデルになるであろう。」

一体誰がこの世界を支配しようと狙っているのだろうか？世にはさまざまな陰謀説の本が出ている。興味深いので私もいろいろあさって読んでみた。しかし、聖書と証の書の助けがなければ混乱させられる。これらの陰謀説が間違いとは言わない。多くの事実を述べていると思う。ただ、イルミナチ、フリーメイソン、外国問題評議会（CFR）、日米欧三極委員会(TLC)、国際ユダヤの財閥、ロスチャイルド、ロックフェラー等々の上に君臨している真の正体を暴露している本は非常に少ない。

聖書と証の書の靈感の書は何と言っているだろうか？

■ 誰が世界支配をねらっているか？

ダニエル 11：40～、黙示録 13 章、17 章、18 章によれば、ローマ法王教(先の獣)であることがはっきりしている。その正体を暴露している人がフランスのアブロ・マンハッタン、「暗殺」の著者、エリック・J・フェリップ、日本の赤間剛氏、アメリカのアルバート・リヴェラ、ジャック・チック等々である。……

その他わが教会にも数人いるようだ。カトリックの「血の鍵」の著者、マラカイ・マーチンでさえ世界支配者はローマであると言っている。

大争闘下 35 章、特に 321 ページには明言されている。「ローマの狙いは、再び世界を支配することである」と。



マラカイ・マーチン

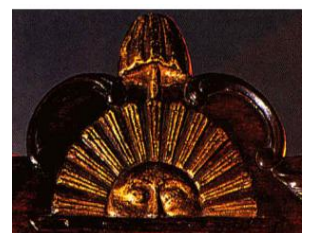
黙示録 13 章によると、アメリカがその手助けをするのである。近い将来、どのようにローマの支配が具体的に成就していくかは、まだ研究を要する。ダニエル 11：40 以降の預言によると、「北の王＝ローマ法王教」が世界を制覇していくが、具体的にどのように成就するかは意見が一致していない。「南の王＝イスラム勢力」と「北の王＝十字軍」の戦いが展開されると見ている研究者もいる。2001 年 9 月 11 日のあのテロ事件で、ブッシュ大統領は「これは十字軍だ、これはテロリズムとの戦争だ」と発言し、イスラム教の反発を受け撤回したことがあった。

法王教と手を組んだアメリカに、近い将来どんなことが起こるか、聖書の預言の研究と諸事件を見守る必要がある。

■ オバマのシンボル「Rising Sun,日は昇る」と日曜休業令の関係

この太陽のシンボルは興味深いことに昔から米国大統領の座る椅子にあったのだ。右の図がジョージ・ワシントンの座る椅子であった。太陽のシンボルが見えるであろうか。これはフリーメイソン、ニューエイジ(新時代)、オカルト、ローマ法王教のシンボルであり、元々はエジプト、バビロンから来たものである。(これは一大研究になるので次回にまわす)。

ジョージ・ワシントンはフリーメイソンとしてよく知られている。彼は



他のフリーメイソンらと独立宣言に署名した。独立記念館のいすに日の出が工作されている。その椅子はいまだに残っている。

ベンジャミン・フランクリンはこう言ったそうだ：「私はこのシンボルが大統領のうしろにあるのをしばしば見てきたが日の出か日没かがわからなかった。しかし今私は・・・それが日の出であることを知っている。歴史上の大きな変革がある時、この日の出が見せられるそうである」(ジェームス・マジソンによる)。

オバマは大統領選挙にこのシンボルを使ったが、彼が日曜休業令を制定するか否かは分からないとしても、プロテスタント教会が政府と結託して日曜休業令へと導くことが明らかになってきている(大争闘参照)。

「悪の力は、その勢力を結集し、強化している。最後の危機に対して、彼らは力を増強しているのである。間もなく一大変化が、この世界に起こる」であり、しかも最後の動きは急速である。世界情勢は、困難な時が切迫していることを示している」9 T11。

他の終末のしるしも特筆に値するが、現時点で全世界に不安を与えているのは、経済不況ではないだろうか。ある専門家たちは、「世界恐慌再来の影」が忍び寄っているともいい、また、ある人は「今アメリカは没しつつある」とも描写している。

日本でも毎日この不況問題がマスコミで取り上げられている。

日本通の英国人、ビル・エモットは日本がバブルのとき(1989年)、「日はまた沈む」という本を書いた。その後しばらくして彼は、「日はまた昇る」という本を書いた。今度はどんな本を書くだろうか。



■「歴史は繰り返す」ことを忘れてはならない。

話を元に戻そう。大統領の椅子にも太陽が彫刻されていたことは、フリーメイソンの仕業に違いない。フリーメイソン、イルミナチという世界支配陰謀者たちを操っているのは、ローマのイエズス会であることが分かっている。

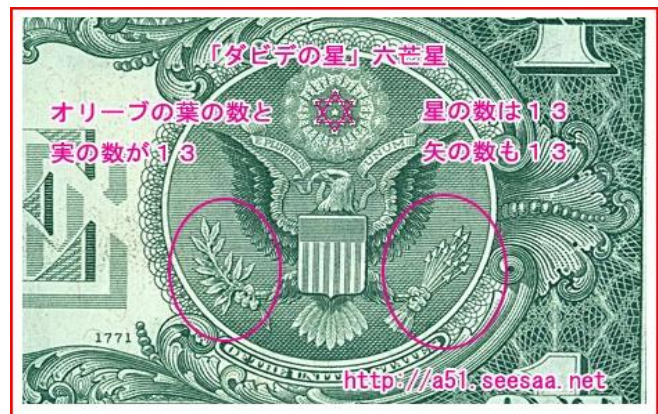
アメリカのドル紙幣に早くからフリーメイソンのシンボルが使用されていたことは不思議ではないか。

左のピラミッドの頭上に文字が見える。それは「神われらの企てを嘉(よみ)したまえり」という意味である。その神とはフリーメイソンの神である。

ピラミッドの下には「**NOVUS ORDO SECLORUM** 新世界秩序」という言葉も見える。年号も書かれているが、それは1776年である。イルミナチという秘密結社がアダム・ヴァイシャプトによって結成された年であり、アメリカ建国の年でもある。

イエズス会→イルミナチ→フリーメイソンが時間をかけて狙っていたアメリカ支配の実現が迫っているのではなかろうか。

ローマ法王教のねらいは三つある。①再び



■ アメリカに変化「日の出」の時が来たか？！

世界を支配すること、②迫害を復活すること、③プロテスタントが行ったすべてのことを無効にすることである(大争闘下 321)。

1990年の初めに共産国ソ連を崩壊させ勝利した法王教の次の狙いは自由のチャンピオンであるアメリカである。「プロテスタントアメリカの自由がイエズス会の最も嫌うものである」とイエズス会の陰謀に詳しいビル・ヒューズ牧師は断言する(The Secret Terrorists, Vatican Assassins by Eric Jon Phelps を参照)。



■ 人間の窮地は神の好機

一大変化は一大危機の近づいていることであるが、「しかし人間の窮地は神の好機である」患難上 157。

「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主のはたらかれる時です」詩篇 119:126。

偽りの「**Rising Sun**—日の出」と神のプログラムの「日の出」が聖書には書いてある。「獣の刻印」と「生ける神の印」の対決である。

聖書の次のような個所に日の出のように神が力と栄光をあらわす日が来ると預言されている：

黙示録 7:12「また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た」。

黙示録 18:1「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」。

イザヤ 59:19「こうして、人々は西の方から主の名を恐れ、日の出る方からその栄光を恐れる。主は、せき止めた川を、そのいぶきで押し流すように、こられるからである」。

イザヤ 60:1「起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上にのぼったから。見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあらわれる」。

雅歌 6:10「このしののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者はだれか」。

マラキ 4:2「しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる」。



■まもなく、神の民にも大いなる変化が来る！

日曜休業令という最後のテストによって我々の教会に二つの大変化が起こる。

① 神の民と自称する者の中から「多くの者が震われる」。

「あらしが 迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、テストが来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。そして、偽りの報告やあてこすりによって、彼らに対する権力者たちの怒りをかき立てる」大争闘下 378。

② 忠実な者たちに後の雨の聖霊降下があり、大いなる叫びがなされる。

「真理は、生命よりも愛すべく尊いものであった。わたしは、何がこのような大きな変化をもたらしたのかをたずねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天使の大いなる叫びである』と天使は言った。大いなる力が、これらの選ばれた人々と共にあった。天使は、『見なさい』と言った。わたしの注意は、悪人たち、すなわち信じない者たちに向けられた。彼らは騒ぎ立っていた。神の民の熱心と力とが彼らを刺激し怒らせた」初代文集 440。

何と厳粛なことではないか？同時に神の民に「慰め」、「活気」、「再生」の時が近付いているのである！

遅くならない前に、我ら何をなすべきかを主に問うべきではないだろうか？

「あなたがたの神は言われる、『慰めよ、わが民を慰めよ、ねんごろにエルサレムに語り、これに呼ばわれ、その服役の期は終り、そのとがはずでにゆるされ、そのもろもろの罪のために二倍の刑罰を主の手から受けた』」イザヤ 40:1,2。

「そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けた」新改訳
「罪のすべてに倍する報いを主の御手から受けた」新共同訳



「都会から出よ、都会から出よ！」—これは主が私に与えられたメッセージである。CL32 「自然のふところにはこうした人々を養うのに十分な資源がある。...地を耕作することは多くの人に生計を得させる機会のある分野を開く」ミニストリー164。



徳川家の家訓

吾、唯、足るを、知る

わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。わたしは貧に処する道を知っており、富におる道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。ペリピ 4:11, 12

それは実現したかもしれない。」



借金：体の束縛



借金に巻き込まれるとサタンの仕掛けたわなにはまってしまう。

アドベンチストホーム 445



買い物十戒

1. 本当にそれは必要か。 ペリピ4:19
2. 予算内であっても神に下さるようと祈ったか。 箴言16:3
3. 霊的成長の助けとなるか。 1 コリ6:12
4. 物を愛する心から買いたいのではないか。 1ヨハネ2:16
5. 買うまでどの位待つことができたか。 ペリピ4:12,13
6. その品物に疑問はないか。 ヤコブ1:6
7. よい投資か。金を地にうめていないか。 マタイ25:14-30
8. 現金で買えるか。借金に追い込むか。 ロマ13:8
9. 家族に価値があるか。 1テモテ5:8
10. この買い物は神も喜ぶか。 1コリ10:31

いとしのわがやりくりおかかよ！！礼をいうぞヨ



”みこころでしたらきよめてください”



「借りる者は貸す人の奴隷となる」箴言 22:7
「借金は生活の災い...天然痘の如く避けなさい」アドベンチストホーム 445。

神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。詩篇 46: 1



マタイ5章48節の 完全

ある説教者がこんなことを言った：

「誰もが大好きな聖句は、ヨハネ 3:16『神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである』。また多くの者が大嫌いな聖句はマタイ 5:48『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』である」と。

あなたはどうか？ こんな思想が流行している：

「完全な品性を神が要求されるなんて考えられない。「完全」とは「成熟」という意味であり、厳密な意味で全く罪のない状態のことを言うのではない。そのような完全を神が要求するはずがない。最善を尽くしていれば、神はその人を成熟、すなわち完全とみなしてくださる。再臨前に、この地上で墮落した肉体を持つ人間に罪なき完全を神が要求なさることなど考えられない。それは不可能であるばかりでなく、恐ろしい思想だ。最後の生きて主を迎える神の民だけが特別な経験をするのではない」という声を聞かないだろうか？

あるいは、

「義認され=赦され、救われているのだから、それ以上何を望む必要があるか？あまり救いを難しく考える必要はない。無償で与えられる神のゆるしに安んじていいのだ」。

こういう考え方が今日我が教会の主流をなすものである。

神のみこころは、神が聖なるお方であるように、信者も聖なる者となることである。神の救いの計画は「ゆるし」ばかりでなく、清くし、元の状態に回復することである。神の贖いの計画は、人間の心、**体**、そして人間の住むこの**地球環境**を包含している。これがアドベンチストの基本的な教えである。

- ① 千年期の終わりに地球環境は全く新しくされる。

完全な環境に住むために、前もってキリストの再臨の時に完全な体に変えられていなければならない。

黙示録 21 章 短時間に万物が更新される。

- ② キリストの再臨の時に我々の卑しい、朽ちる体が不朽の体に変えられる。これを栄化という。体は一瞬にして変えられる。

1 コリント 15:51 - 55



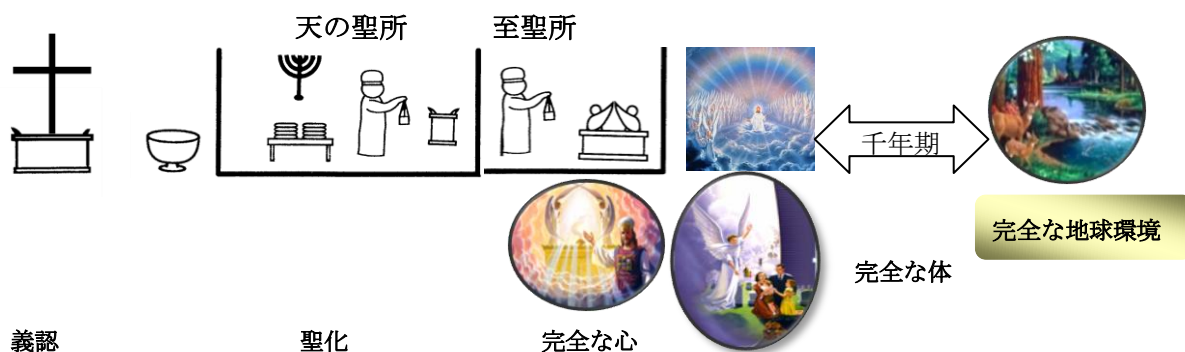
- ③ 完全な体に変えられる前、キリストが天の至聖所におられる間に完全な心に仕上げられていなければならない。

キリストが大祭司として天の至聖所において最後のあがないをしておられる間に、信者の心は、もろもろの罪から清められて、**罪なき品性**に完成されるのである。恩恵期間が終了した後は、罪の処理はない。

人の心の回復だけは時間がかかる。人はキリストを受け入れる瞬間に義認される。しかし、聖化は一生涯かかる。そして最後に罪の除去が一瞬のうちになされる。それは信仰による義認の十分にして完全な成就であるからである。



完全に地球環境が回復されるまでの順序を整理してみよう。



靈感の言葉は、はっきりしている：

「キリストがおいでになるとき、我々の**品性**は**変えられない**。これらの汚れた肉体は変えられ、キリストの輝かしいお体のように形作られるであろう。しかし、その時、我々の内に**道徳的変化**はおこらないのである」RH 1888,8/7。

「キリストがおいでになるとき、我々の卑しい体は変えられ、彼の輝かしい体のようにされる。しかし、その卑しい**品性**は、その時、**清く**されることはない。**品性の**改変は、彼がおいでになる前に**起こる**のである。我々の**性質**は純潔で清くなければならない。我々の魂にご自分のみ像が反映されるのを主が喜びをもってごらんになるために、我々はキリストの心を持たなければならない」OHC 278。

※神学の詭弁： どうして「卑しい体が変わる時まで罪が残る」と言うのだろうか？ どうして「罪性＝罪深い性質＝生来の罪、罪への傾向は再臨まで残る」と言うのだろうか。ある人は、罪性は罪ではないと考えているようである。なぜなら、「キリストはご自身の罪なき性質に我々の罪深い性質を取られた」という表現があるからだろうか。キリストは一瞬たりとも罪深い性質、罪への傾向を持たれたことはなかった。我々は原罪、すなわち罪深い性質を持って生まれてくる。我々とキリストは全く同じではない。しかし、キリストの恵みは、彼に似た罪のない品性を持つことができるように配慮されていることが聖所の働きに明らかにされている。**調査審判と罪の除去**という祝福である。真理は「道の四つ角に立って、どちらに行こうかと思案しなければならないような不明瞭なものではない」安息日学校への勧告 21。

「聖書についてあいまいな、**変わった解釈**をしたり、またキリスト教界において、宗教的信仰に関して多くの矛盾した説があったりすることは、人心を混乱させて真理を見分けられないようにするための**大敵サタン**のしわざである」大争闘下 263。

「ラビたちは、聖書のみことばがある意味にも解釈され、またはそれと全然正反対の意味にも解釈されるかのように、疑いとためらいとをもって語った。聞く者たちは、毎日ますますわからなくなかった。しかしイエスは聖書を疑問の余地のない権威のあるものとして教えられた」1 希望 316。「彼らの神秘的な解釈は、神が明らかに示しておられることを不明瞭にした。彼らはつまらない専門用語について論争し、最も本質的な真理を事実上否定した。歴史はくりかえされている」1 希望 322。

「罪は犯さなくなるが、罪なき状態になることは不可能」、これは神が言っておられることだろうか。

- ダニエル 8:14 「二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する」。

聖所の清めは、再臨前になされるということは SDA の基本教理である。それは信者の全き清めのことである。

- レビ 16:30 「この日にあなたがたのため、あなたがたを清めるために、あがないがなされ、あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められるからである。」

再臨前に「もろもろの罪が清められる」とすれば、では、それはいつのことか。

恩恵期間中になされるのである。

- 「今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあって完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された (ヨハネ 14:30)。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つけることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである」大争闘下 397。

この文章は、神の子としての「身分」が与えられるだけでなく、キリストのように「罪のない状態」になれると言っている。

- 「キリストに対する信仰によって神の戒めのすべてに従う者だけが、アダムの罪を犯す前に生きた罪のない状態に到達するであろう。彼らは、神の律法のすべてに従うことによってキリストに対する愛を証するのである」6 B C 1118。

マタイ 5:48 の完全は「成熟」か、それとも罪のない完全な状態か。成熟とは 95%、96%、97%、98%、99%にも言えるであろう。しかし完全という場合は 100%という意味である。イエスが言われた「完全」は人間の哲学で解釈される必要はない。「預言者の霊は預言者に服従する」(1 コリント 14:32)と言われているゆえに、預言者、E.G.ホワイトに説明してもらおう：

- 「神がご自分の子らに望まれる理想は、人間の最高の思いが達することができるよりももっと高い。『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』(マタイ 5:48)。この命令は約束である。あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全にとり戻すことがもくろまれている。キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪からひき離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた。

一つの悪の行為に対して、誘惑者の力は言いわけにならない。サタンは、キリストに従うことを告白している人たちが、品性の欠陥について言いわけをするのをきくところおどろして喜ぶ。罪へいたらせるのはこのような言いわけである。罪を犯すことに言いわけはない。悔い改めて信ずるすべての神の子らは、聖なる気質を持ち、キリストのような生活にはいることができるのである。

クリスチャン品性の理想は、キリストに似ることである。人の子キリストが、その生活において完全であられたようにキリストに従う者も、その生活において完全でなければならない。イエスは、あらゆる点において、兄弟たちと同じようになられた。われわれと同じように、肉体をおとりになった。彼は飢え、渇き、お疲れになった。主は、食物によって力づけられ、睡眠によって元気を回復された。イエスは、人と同じ身分でありながら、しかもきずのない神のみ子であられた。イエスは、肉体をとられた神であられた。キリストのご品性がわれわれのものとなるのである。主を信ずる者について、こう言われる、『わたしは彼らの間に住み、かつ出入りするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう』（2コリント 6:16）。

キリストはヤコブの見たはしご、すなわち足が地面について、てっぺんが天の門、栄光の門口に達しているはしごである。もしこのはしごがたった一段でも地についていなかったら、われわれは滅びてしまったのである。だがキリストは、われわれがいまいるところで、われわれにとどいてくださる。主は、われわれの性質をおとりになって勝利されたが、それは、われわれがキリストの性質をとることによって勝利するためである。イエスは『罪の肉の様』になられたが、罪のない生涯をおくられた（ローマ 8:3）。いまキリストは、神性によってみ座につらなっておられるが、一方では人性によってわれわれのもとに達しておられる。キリストは、わたしを信ずることによって、神のご品性の栄光に到達しなさいとわれわれに命じられる。だからわれわれは、『天の父が完全であられるように』完全な者となるのである（マタイ 5:48） 2 希望 20, 21。

キリストは罪のない生涯を送られた。「完全」とは、キリストのような罪のない状態である。「神の品性と全く同じ品性」である（実物 331）。英文では「counterpart(写し）」となっている。オリジナルと同じように「しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿」になるのである。

ちょっと待った！キリストと同じ品性？（キ実 331）

しかし、それは「最後のあがない＝仲保」なしには決して成就されない。聖化のどんな長い経験でも得られるものではない。この経験は、どんな聖人も生きている間に経験することはなかった（エノクとエリヤは例外で生きて主を迎える者の型である）。パウロも、ルターも、ウェスレーも、そしてホワイト夫人も。必ず調査審判と最後のあがない＝罪の除去がなされなければ、天に移されることはないのである。（国指下 193-196、大争闘 28 章参照）。

死んだ義人も「死んで後裁きを受け」て、罪が除去され天に移されるのである。死なないで生きて主を迎える者たちも「生ける者の裁き」で罪が除去されて天に移されるのである。この罪の除去は、ゆるしと同じように一瞬になされるものである。「審判が終わるまでは、彼らの罪はぬぐい去られることはない」大争闘下 218。

E.G.ホワイトは、次のように言っている：

『かつてなかったほどの悩みの時』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれが持っておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである」大争闘下 396。

「わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映してなければならない」初代 149。

「しかし、人々は、まだ主に会う準備ができていなかった（1844 年の再臨待望者たち）。まだ、彼らのためになされねばならぬ準備の働きがあった。彼らは、まず光を受けて、天にある神の宮に心を向けねばならなかった。そして彼らが、そこで奉仕しておられる彼らの大祭司に、信

仰によって従っていくときに、新しい義務が示されるのであった。もう一つの警告と教えの使命が、教会に与えられるのであった。

預言者は語っている。『その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる』(マラキ 3:2,3)。天の聖所におけるキリストのとりなしがやむとき地上に住んでいる人々は、聖なる神の前で、仲保者なしに立たなければならない。彼らの着物は汚れがなく、彼らの品性は、血をそそがれて罪から清まっていなければならない。キリストの恵みと、彼ら自身の熱心な努力とによって、彼らは悪との戦いの勝利者とならなければならない。天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。この働きは、黙示録 14 章の使命の中にさらに明瞭に示されている。

この働きが成し遂げられると、キリストの弟子たちは、主の再臨を迎える準備ができるのである。『その時ユダとエルサレムとのささげ物は、昔の日のように、また先の年のように主に喜ばれる』(マラキ 3:4)。その時、主が再臨されてご自分のもとに受け入れられる教会は、『しみも、しわも、そのたぐいのもがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会』である(エペソ 5:27)。また、その教会は、『しののめのように見え、月のように美しく、太陽のように輝き、恐るべき事、旗を立てた軍勢のような者』である(雅歌 6:10) 大争闘下 140,141。

これは重大問題！

「サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていなければならない働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである」大争闘下 221。

セブンスデー・アドベンチストのアイデンティティー(独自性)はここにのみ見出される。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる」大争闘下 222。

「立場」すなわち、セブンスデー・アドベンチストのアイデンティティーである。聖所の教理、第三天使の使命が「我々を別たれた民にするメッセージそのもの」(CW53)である。

生死にかかわる現代の真理であるが故に、読者にぜひ自分で追究してほしいと願うものである。神学者は難しい用語を使い信徒は毛嫌いする傾向があるが、結論は何と言っているかに留意すれば難しいことではない。

「しかし、群れが今必要としているのは『現代の真理』である。わたしは、使命者たちが、現代の真理の重要点を離れて、群れを一致させ魂を清めるのになんの役にもたたない問題を長々と話す危険を見た」初代 137。

「人が何を信じて、それはさほど重要なことではないという態度は、サタンが最も成功を収めている欺瞞の一つである。人が真理を愛して、受け入れるとき、真理はそれを受け入れた人の魂を清めることをサタンは知っている。そのために、彼は絶えず偽教理、作り話、別の福音などを真理の代わりにしようとしている」大争闘下 263。

一読をお勧めする印刷物：

我々が最も知っていなければならない働き、サタンが最も憎む大真理について、あまりにも混乱があるので、この問題を検証してみた。読者は是非一読してご意見を聞かせてほしい。検証した問題点の目次を挙げてみる。

「SDA 教会の中で聞く教えを検証」

序論：今日の問題点を検証

1. 1844 年 10 月 22 日は福音理解には重要なことではない。それは何ら聖書的根拠がない。証の書がなければ聖書で証明できるものではない。キリストは昇天後すぐ、至聖所に入られたのである。
2. 何のために、イエスは天の聖所の第二の部屋—至聖所に入られたのか。その目的は何か？
3. 神は悔い改めて信じた者たちをすでに救われたのであって、どうしてまた調査してさばく必要があるのか。「彼を信じる者は、さばかれない。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。」(ヨハネ 3:18)と書かれているではないか。
4. 罪を赦されたキリスト者は調査審判においてまた、特別な清めの経験をするだろうか。それとも罪を赦された者は、調査審判において監査、確認をするだけなのだろうか。
5. 罪はいつ罪人から除去されるのか？罪を告白した時か、さばきの時においてか？再臨の時か？
6. どうしてセブンスデー・アドベンチストは、十字架であがないは完成したのに「最後のあがない」とか「特別なあがない」とかいう言葉を使うのか。十字架でのあがないは不足であったのか。
7. アブラハム、ノア、ダビデ、アサ、ヨブ、ダニエル、ヨハネ、パウロは完全ではなかったか？創世記 6:98(全き人)、1 7:1(全き者)、歴代志上 28:9(全き心)、列王上 15:14(全き真実)。「聖書的完全」はそういう意味ではないか？
8. 「パウロはキリスト・イエスにあって人として道徳的に完全な身の丈まで達した。彼の魂はどのような過程を通して発達したか？彼の生涯は絶えざる困難、戦い、労苦の連続であった」(7BC 903)と書いてあるではないか。
9. 最後のあがないが 144,000 を完全にするという教えからすると、神は他の時代の人々からその経験を差し控えていたのか？
10. エノクとエリヤは聖所の清めの時が来る前に天に移されたではないか。なぜ我々には最後のあがないの経験が必要なのか？
11. さばきは、もうすでに聖化の過程で品性を完成した者を確認、監査するだけだ。さばきの前に完全な品性に到達していなければならないのではないか。
12. 日曜休業令と完全な品性の関係。
完全な品性は日曜休業令の前に完成されなければならない。日曜休業令は 100 点(完全)になった人がパスする最後のテストだから。日曜休業令が發布されてからなお、不完全であるなら、パスできない。
13. 聖所の清めというのは天の聖所の清めであり、天にある記録の書からの法的な清めである。神の民の特別な清めではない。
14. **罪なき完全な品性**はこの地上では不可能なことである。罪が完全に取り除かれるのは、再臨の時である。
15. キリストを信じる者たちは、神の恵みによって救われるのであって、過去の聖徒たち以上の**特別なきよめの経験**は必要ではない。



16. キリストはアダムの墮落前の性質を取られた。我々の身代わりであって、我々が罪を犯さないで生きられるという模範ではない。
17. 1888年の信仰による義のメッセージに関して1888年にわが教会で一時反対があったが、教会は受け入れたので今日の繁栄がある。信仰による義認は、他教派も共有するものである。
18. SDA と他教派との関係
19. キリストの仲保の働きは再臨まで続くか？恩恵期間で終わるのか？
恵みの期間が閉ざされる時、キリストの仲保なしに、完全な者として立つことができなければ、悩みの時を通り抜けることはできないといった強調は誤りであるか？
20. 後の雨／大いなる叫びが、今、あるところでは起こっている。日曜休業令に備えさせるために降るのか？
21. 生ける者のさばきに移る時は誰も知らないはずだ。どうして日曜休業令から始まると言えるのか？
22. 144,000 の印される働きは 1844 年から始まったのだろうか？
23. 証の書に 1844 年以来三天使の使命、安息日を受け入れた者が印されたと書いてある。

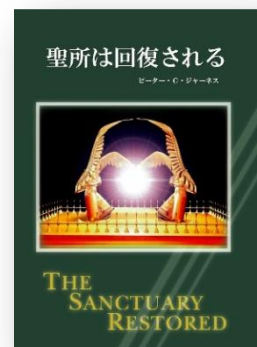
144,000 には死んだ義人たちも含まれるか。
24. 144,000 は 1844 年から印された字義どおりの数であろうか？
25. 「カトリック教会は変わったのだ。カトリックのことを悪く言ってはならない。信教の自由も認めたのだ。」
26. 最後の時代に神はご自分の民を通してご自分を擁護する必要があるのだろうか？
27. 「黙示録 13 章の獣は、ローマ・カトリックにだけ特定できない。時代によって、国によって適用は異なる。」「ヒトラーか、スターリンにも適用できるであろう。」「イスラムパワーかもしれない。」
28. SDA 教会は背教してはいない。成長してすばらしく発展している。
29. セブンスデー・アドベンチスト教会は背教し、ラオデキヤになったから、出て分離すべきであろうか。「名目的再臨信徒」から分離すべきであるというのはどういうことであろうか？
30. エレン・ホワイト、証の書について：
 - ① エレン・ホワイトは単なる天才的宗教家か、あるいは預言者的指導者か、それとも聖書記者と同じ預言者か。
 - ② エレン・ホワイトは、聖典の著者ではないから権威はないか？
31. 死んで主を迎えることと、生きて主を迎えることとの経験に違いはあるだろうか？

次の本も必読の書である。

「聖所は回復される」

ピーター・ジャーネス 著（ユニオンカレッジの元宗教部長）

1. 先駆者たちの思想
2. いつ頃から変わってきたか？
3. 誰が変えたのか？
4. 聖所の清めの深い意味

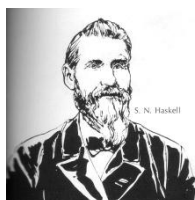


- 5. 真のプロテスタント主義と真のアドベンチスト主義の類似点、相違点
- 5. なぜ、完全に清められた聖なる民の集団が出現する必要があるのか？
- 6. これでセブンスデー・アドベンチストの存在の理由が分かる！

完全を説いた人々—生きて主を迎える人々は特別な経験をする：



「多くの者は、人が死ぬ準備ができていたら、主の再臨に備えができていていると思っている。しかし、彼らは死ぬことと生きて主を迎える立場の違いを考えない。主にあつて死ぬこと、父のみ座の前でとりなすキリストに、彼らの霊をゆだねることは一つのことであり、主が人類のためにとりなしを止め、大祭司の務めを止められ、敵に報復し、ご自分の民を迎えにおいでになるときまで、悩みの時を通過して生きる人々とは大きな違いがある。これらのことを認める者は、神のあわれみによって、聖徒たちの完全のために配慮されている方法に対して感謝するであろう」 L.S.of James and Ellen White 431。



S.N.ハスケル長老：

「調査審判において、価値ある者とされた人は、天に仲保者なくして生きるのである。彼らの経験は、この地上に住んだどのグループとも異なっているのである。」 (The cross and its Shadow p221)



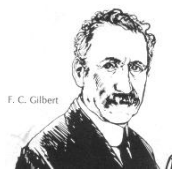
A.T.ジョーンズ

「神の奥義が成就する場所が 2 か所ある。一つは述べ伝えられなければならないこの世であり、もう一つは真理を信じる者の生活である。もし、真理を述べ伝える者の生活にその完成がないと、1 万年たっても終わりは決してこないであろう。信者に肉において神を表すことの完成がなければ、神の奥義の成就というものはあり得ない。」 (G.C.Bulleitein 1899 p115)

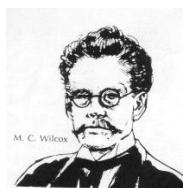


E.J.ワゴナー

「恩恵期間が閉じる前に、罪深い肉にありながら罪なくして生きる完成された民が現れるであろう。彼らは朽ちる肉体で罪なき生活をするであろう。なぜなら、主は罪深い肉において罪なき生活を送られたからである。」 (G.C.Bulleitein 1901,p146,148)



F.C.ギルバート
ユダヤ人 SDA 学者



ウィルコックス



E.W.ファーンズワース



マーヴィン・マックス
ウェル
アンドリュース神学大
学、神学大学院の教会
支部長

私は、罪なき品性を信じる、もしこの言葉が正しく定義されているならば。私は敵からその言葉をひたたくって、正しく使い、すばらしいものとしてそれを用いることができればと願うものである。肉の罪なき完全ではなく、魂の罪なき完全である。(Perfection p170)

SDAは変わる？

特別な証、シリーズ B、#7、39～40 10-1903 年（セレクトッド・メッセージ 1 巻 204、205 ページ）：

「魂の敵はセブンスデー・アドベンチストの間で大改革が起こるべきであるという推測を持ち込もうとしてきた。この改革は我々の信仰の柱として立ってきた教理を放棄し、組織の再編成に従事することで成り立つというものであった。このようなことが起こったなら、その結果はどうなることであろう？ 神の知恵によって残りの教会に与えられた真理の原則が放棄されるであろう。我々の宗教が変えられるであろう。過去 50 年間にわたり働きを支えてきた基本的原則が、誤りと見なされるであろう。新しい組織が確立されるようになる。新しい種類の書物が書かれるようになる。主知主義(知識偏重)のシステムが取り入れられるようになる。このシステムの創設者が都市へ行き、目ざましい働きをするであろう。もちろん安息日は軽視されるようになり、それをお造りになった神も同じく軽視されるであろう。新しい運動を阻止しようと立ちはだかるものは、何であって許されないであろう。美德は悪徳にまさると指導者が説くが、神がとりのぞかれ、神なしでは何の価値もない人間の力に彼らは頼るようになるであろう。彼らの基礎は砂の上に立てられ、嵐が吹き荒れると、建物はひとたまりもなく倒壊するのである」。

預言者はわが教会に起こる背教のオメガに身震いするほどだと言った。Series B #2 16,1904。

セブンスデー・アドベンチスト日本教団 08 年 12 月 17 日の手紙一大きく変化？

「これらの教理理解は過去 20～30 年の間に、SDA 教会が公に表明する見解が大きく変化してきた領域であることを覚えなければならない」 沖縄教区、教会・集会所の皆さまへ。

変わったことは確かな事実である。良い方向に変わったのだろうか。

E.G. ホワイトは初代文集に次のように警告している。

「わたしは、一群の人々がしっかりと守られて堅く立ち、確立された教団の信仰をぐらつかせようとする人々には目もくれないのを示された。神は彼らをごらんになってよみされた。わたしは、第一、第二、第三の天使による三段階の使命を示された。わたしにつきそっていた天使は言った。『この使命をすこしでも変える者はわざわいだ。この使命を本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、この使命をどう受け入れるかにかかっている』。わたしはふたたび三重の使命を示され、神の民がどんなに高い代価を払ってその経験を得たかを示された。それは多大な苦難と激しい戦いを経て得られたものだった。神は、彼らを一步一步みちびいて、ついに彼らを動くことのない固い土台の上に置かれたのである。わたしは、各人がこの土台にやってきて、その基礎を調べるのを見た。ある者は、よろこんでそこにとびのった。ある者は、この基礎の欠点をさがしはじめた。彼らは、この基礎に手を加えて、土台をもっと完全にし、人々をもっと幸福にしようと望んだ。ある者は土台からとび降りて調べ、置き方がちがっていると断言した。しかしわたしは、ほとんどすべての者が土台の上にしっかりと立って、台からとび降りた人たちに向かって、土台を作られたのは神なのだから、文句を言うのをやめるように、そうでないと神と戦っていることになるのだと、説きすすめているのを見た。彼らは、自分たちが神の不思議な働きによってこの堅固な土台にみちびかれてきた次第を詳しく語り、いっせいに目を天へあげて、大きな声で神を賛美した。文句を言って台からとび降りた人々の中には、これに影響されて、謙遜な面持ちで、もう一度とびのる者も幾人かあった」初代 420、421。

しかし、神の民に全ての光が与えられたのではない。最後まで神は「光の洪水」を与えるとされている。覚えていなければならないことは、古い真理に立って新しい真理に進むという原則を持ち続けることである。

「真理には、どの時代でも新しい発展があった。つまり、時代ごとに、その人々のための特別の神からの使命があった。古い真理はみな重要である。新しい真理は古い真理から切り離されたものでなく、古いものの解明である。古い真理を理解して始めて、新しい真理を悟ることができる。……真理を新たに解き明かすことによって、輝く光が古いものをいっそう輝かしくする。新しい光を拒んでなおざりにする人は、実は、古いものを持っていない。それは、彼にとって、生きた力を失ったむなしい形式と化してしまうのである」実物 105、106。

最後に私の大好きな引用文を挙げよう：

① 「サタンは、数えきれないほど多くの策略を考え出してわれわれの心を捕え、われわれが最もよく知っていなければならない働きそのものについて、われわれに考えさせまいとしている。大欺瞞者サタンは、贖罪の犠牲と全能の仲保者を明らかにする大真理を憎んでいる。イエスと彼の真理から人々の心をそらすことに、万事がかかっていることを、彼は知っているのである」大争闘下 221。

② 「私どものあがないのために払われた価、私どものためにそのひとり子に死をさえおゆるしになった天の神の測り知れない犠牲を考えると、キリストによって私どもは非常に高潔な状態に到達することができるという観念をおこさずにはおられません」キリストへの道 10、11。

この二つの引用文で、「完全な品性は可能か」という問題は単純に解決できるのではないだろうか。

1. ②の引用文によると贖罪の犠牲、十字架を掲げるならば、完全になれるという観念をおこさずにはおられなくなる。十字架、十字架と言いながら完全を否定するのはおかしいではないか。神の測り知れない犠牲を考えないから不可能などという言葉が出るのである。
2. 更に①の引用文によると、「全能の仲保者」と強調している。完全な品性は「人にはできないが、神にはできないことはない」ことを信じる信仰による義認なのである。アブラハムはどのように義認されたであろうか。「無から有を呼び出される神を信じた」「望み得ないのに、なお望みつつ信じた」からであった。サラの胎が閉じていたのに約束を信じた結果「義と認められた」のである。そして、イサクが生まれたのである。
マリヤは結婚しないのに全能者を信じたから、み子イエスを宿したのである。「この命令は約束である」ことを覚えよう。「神のご命令はすべて、それに従う力を与える」青年 93、94。
3. 「全能の仲保者」が、最後の仲保、贖いで罪を処理し、品性を完全にするのが神のご計画なのである。この最後の仕上げ(Final At-onement=婚姻、神性と人性の結合)を信じさせまいとするサタンの策略が、現代の背教のオメガではないだろうかと憂慮するものである。

マリヤは「どうして、そんな事があり得ましようか」と言った。しかし、天使に「神には、なんでもできないことはありません」と言われ、ついに「お言葉通りこの身になりますように」と答えた。

これこそ、神が我々に望んでおられる信仰の表明ではないだろうか。

古代エジプト史に おけるヨセフ

メリー・ネル・ワイアット (1994年4月)

砂川 満 訳

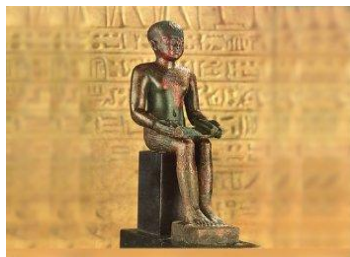


聖書の記述を裏付ける証拠が、多くの歴史学者や考古学者らによって退けられてきたという事実には、驚きを禁じ得ない。世界中に存在する洪水伝説など、聖書の実話から神話や伝説が作られたにもかかわらず、不信者らは、聖書がこれらの神話に影響されたと言うのである。これらの神話は、サタンが真実を歪めて作らせたものである。そしてついに、神話や伝説に貫かれている思想は、人間が神の存在と聖書の真実性を完全に否定するよう意図されている。奇妙なことに、あらゆる既知の文明には何らかの宗教が密接に関わっていたという事実は、誰も意に介さないようである。もしも神が存在しないとしたら、宗教と神々についての概念はどこから来たのであろう？神が存在するという真実は、洪水後に分散したノアの子孫らによって語り伝えられていったのである。そして実際に、神話や伝説ではなく、聖書の記述を裏付ける証拠が次から次へと発見されているわけである。但し、これらの証拠に対して目をつむる人たちがいるのも事実である。

これらの偉大な証拠のいくつかは、古代エジプトにおけるヨセフの存在と結びつく。出エジプトの数年後にファラオとして統治したホルムヘブの記念碑には、ヨセフがヤコブの家族をエジプトに呼び寄せた出来事を裏付ける記述がある。それには、いにしえからの慣習に従い、エジプトでの家畜の放牧許可を願い出た、北からの遊牧民のことが記されている。また、ベルシェにおけるテフティヘテブの墓にも、シリアから来てエジプトに入国する家畜の絵が描かれており、「かつてお前たちはシリアの砂を踏んだ。今やここエジプトにおいて、緑の牧場で養われる」との碑文が添えてある。

より詳細にわたってヨセフの物語と近似する様々な証拠が、この記事の焦点である。だ

がまず、舞台設定をしなくてはならない。聖書の記録に基づいた私たちの年代学によると、大洪水は紀元前 2348 年頃に起こった。それから約 427 年後の紀元前 1921 年頃に、アブラハムがハランを去った。それから間もなくして（どれほど間もなくかは不明）、カナンにおける飢饉の故に、アブラハムとサラはエジプトへ行った。アブラハムのエジプト滞在に関する聖書の記述は極めて簡潔であるが（創 12：10-20）、アブラハムはサラを自分の妹だと言ってファラオを欺いた。彼女は彼の異母兄妹であったので、これは全くの偽りではなかったが、彼女は彼の妻でもあった。彼女が美しかったために、ファラオは彼女を宮殿に召し抱えた（創 12：12-15）。そのために、王はアブラハムに多額の報酬を支払ったが（16 節）、神が介入なさり、何らかの災難がファラオに降りかかった（17 節）。災いの原因を知ったファラオは、アブラハムを呼び寄せ、なぜサラについて嘘をついたのかと詰問した（18, 19 節）。それから彼は、アブラハムとその一行をエジプト国外まで護送するよう部下に命じる（20 節）。当時のエジプトは、すでに富裕な国であった。そしてちょうどその頃、アブラハムも家畜や金銀などの財産を得て、豊かになっていった（創 13：1, 2）。またその頃に、エジプト人が外国人と飲み食いすることを禁じる法律が制定された証拠も見つかっている（創 46：34）。ヨセフは、エジプト人に算術と天文学の知識を伝えた第一人者に、アブラハムの名を挙げている。それは真実かもしれない。アブラハムがエジプトを訪れたのは、第一王朝の初期頃であったと私たちは考える。ヨセフが、ファラオに次ぐエジプト第二の地位に上げられたのは、それから約 200 年後のことであった。そして第三王朝の時代に、インホテップと呼ばれる、古代史における最も驚くべき人物が表舞台に登場する。



長年の間、エジプト学者たちは、インホテップが実在する人物であったことを疑ってきた。彼が在世したとされる時代から

1000年以上もたってから書かれた記述に載っている、彼の功績とされる様々な偉業を信じるには、かえって無理があったのである。時折インホテップは、古代エジプトの「レオナルド・ダ・ヴィンチ」と呼ばれるが、実際はダ・ヴィンチ以上の人物であった。ダ・ヴィンチは天才であるとの評判を勝ち得たが、インホテップは神として崇められるまで高められた。

エジプトの多くの神々の中で、かつて人間であった者はわずかしかない。インホテップ



はその一人である。マネトーは次のように書いた。「彼〔第三王朝のジョセール〕の治世に、イモウテス〔インホテップ〕は在世した。彼はその医療技術の故に、エジプト人の間でアスレピウス〔ギリシアの医学神〕との評判を得、石材建築の発明者でもあった」。この記述のために、インホテップという人物の実在性はかえって疑われたのである。ところが1926年に、その疑問は完全に払拭された。インホテップは実在の人物であった。サッカラの階段式ピラミッドの発掘が行われたとき、ファラオ・ジョセールの像の断片が見つかった。下部の碑文には、ジョセールの名に連なって、次のように記されていた。「インホテップ、下エジプトの首相、王に次ぐ支配者、大宮殿の行政官、世襲の君主、ヘリオポリスの大祭司、

Statue base of PHARAOH DJOSER



with name of IMHOTEP, "...FIRST after the king..." among his many titles

建築家、彫刻家、石つぼの製作者・・・」

これは、ヨセフの特長とも合致しないだろうか？聖書は、

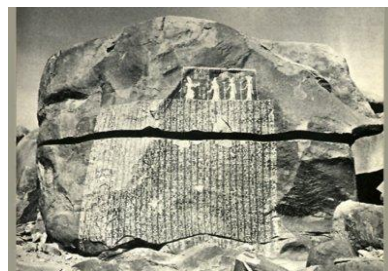
ファラオに次ぐ彼の地位について明確に述べている。

創世記 41 : 40, 43, 44 「あなたはわたしの家を治めてください。わたしの民はみなあなたの言葉に従うでしょう。わたしはただ王の位でだけあなたにまさる。・・・自分の第二の車に彼を乗せ、『ひざまずけ』とその前に呼ばわらせ、こうして彼をエジプト全国をつかさとした。ついでパロはヨセフに言った、『わたしはパロである。あなたの許しがなければエジプト全国で、だれも手足を上げることはできない』」。

事実ヨセフは、ファラオによってあれほどの地位を与えられた最初の人物であったように思われる。そしてその事は、エジプトで発見された証拠によって確認されている。もしもこの人、インホテップがヨセフであったとしたら、聖書の記述と結びつく何らかの証拠があるはずである。

7年の飢饉についての碑文

ヨセフの主な地位は総理大臣であり、インホテップは、古代エジプトにおいてあ



れほどの広範な権威を誇った第一人者であったように思われる。エジプト史を通じて、非常に多くの大臣の記録があるが、インホテップとヨセフを結びつける最初の証拠は、ナイル川にある最初の大滝のすぐ下にあるシヒエル島の大岩に彫られた碑文である。この碑文は、ジョセールが治世の第18年に書いた文書の写しであると言われている。この写しは、そこに記されている事件から1000年以上もたった後に作成された。その写しには、7年の凶作と7年の豊作のことが記されている。この碑文の一部を見て、聖書の記述と比べてみよう。そこに記されている事件の1000年後に書かれたものであることを覚えられたい。

1. それは、ファラオの大きな悩みでもって始まっている：「私は玉座にあって悩んでいた」。

創世記 41 : 8 「朝になって、パロは心が騒ぎ、・・・」。

2. 碑文の中で、ファラオは凶作について悩み、ナイル川の神は誰かとインホテップに尋ねている。旱魃についてその神に伺いを立てるためであった：「・・・私は宮内官であり、プタハの子であったインホテップに、『ナイルの生地はどこか？その神は誰か？どの神か？』と尋ねた」。インホテップはこう答える：「私には、鳥網を統轄するお方の指導が必要です」と。

創世記 41 : 16 「ヨセフはパロに答えて言った、『いいえ、わたしではありません。神がパロに平安をお告げになりましょう』。エジプトの文言において、インホテップは「プタハの子」と呼ばれていた。プタハは、他の神々を含むすべてのものの創造主として知られていたエジプトの神であった。

3. 碑文の中で、インホテップはナイルの神についてファラオに答え、その神がどこに住んでいるか語っている。聖書の中で、ヨセフはパロの夢の解説をしている。碑文の次の場面で、王が眠っているときに、ナイル神クーヌムが夢の中で自分自身を現し、ナイルの水で地が潤され、7年の干ばつの後に7年の豊作がやってくると約束している。順序こそ違いますが、これは7年の豊作と7年の凶作を予告したパロの夢を反映している。
4. 碑文を読み進めると、ナイル神クーヌムへのジョセールの約束が記されている。それは、「神の家」の祭司らを除き、すべての民衆に十分の一の税を課すとの約束であった。

創世記 47 : 26 「ヨセフはエジプトの田地について、収穫の五分の一をパロに納めることをおきてとしたが、それは今日に及んでいる。ただし祭司の田地だけはパロのものとならなかった」。

ここに、ファラオ・ジョセールがその大臣インホテップに、7年の大凶作という難局を乗り切る手助けをして欲しいと嘆願している物語が記されている。インホテップは、答えは彼の一存によらないから、神に伺いを立てねばならないと伝える。それからファラオは、事件を予告している夢を見る。7年の凶作に続いて7年の豊作がやってくるというわけだが、聖書の記述とは順序が逆になっている。ファラオは、祭司を除くすべての国民に10%の税を課す。聖書の記述によると、五分の一すなわち20%の税が課せられており、やはり祭司らは免除されている。聖書の記述を構成

するすべての要素が、この碑文に出てくる。但し、物語そのものは、自分たちの宗教的信条に合うようにエジプト化されている。

この碑文は、紀元前2世紀頃、クーヌムの祭司たちによって、ある土地をめぐる彼らの特権を正当化するために書かれたと考えられている。碑文の一部には、ファラオがある土地と税収を神に捧げたことが記されている。しかし、この物語を記してある碑文は、これだけではない。フィラエ島には似たような碑文があり、それにはイシスの祭司らが、ジョセールと同じ目的で彼らの神に同様の捧げ物をしたとの証言が載っている。洪水伝説がほとんどすべての古代文化に見出され、それぞれの宗教や目的に合うよう歪曲されているように、ここでは、祭司たちと彼らの宗教目的に合うよう歪められつつも、ヨセフの物語が見出されるわけである。

インホテップ、イム（私は有る） と言われる神の声

古代エジプトにおいて、インホテップという名前は、「イムの声（または口）」と訳される。但し、エジプトにおいて、「イム」と呼ばれる神の記録はない。が、私たちは「わたしは有る」と言われる神を知っている。

出エジプト 3 : 14 「神はモーセに言われた、『わたしは、有って有る者』。また言われた、『イスラエルの人々にこう言いなさい。「わたしは有る」というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と」。

ヨハネ 8 : 58 「イエスは彼らに言われた、『よくよくあなたがたに言うておく。アブラハムの生まれる前からわたしは、有る〔欽定訳〕のである』」。

神はモーセに、「私は有る」という方が彼を遣わしたとパロに告げるよう言われた。なぜなら、「私は有る」というのは、エジプト人がヨセフの神として知っていた神の名前であったからである。「イム (Im)」が「私は有る (I AM)」であった可能性はないだろうか？

ファラオによってヨセフに与えられた「ザフナテ・パネア」(創 41 : 45) という名は、ある時には、「神は生きておられる；神は語られる」と訳される。「ホテップ」というエジプト語の意味ははっきりと分かっておらず、インホテップ（「私は有る」と言われる神の声）が、ヨセフに付けられた名前「神は生きておられ

る；神は語られる」と同源である可能性は極めて高い。

医者としてのインホテップ

インホテップは、その歴史的記録が残っている人の中で、最も古い医者であるが、ヨセフが医者であったという聖書の記録はない。但し、一箇所だけ、手掛かりとなる聖句がある。創世記 50：2 である：「そしてヨセフは彼のしもべである医者たちに、父に薬を塗ることを命じたので、医者たちはイスラエルに薬を塗った」。ここに、ヨセフの配下にあった医者たちのことが書かれている。

しかし後に、インホテップの名が「いやしの神」として確立されたとき、彼がいやしを行った方法は、ヨセフに直接結びつくものであった。古代ギリシアの文書には、メンフィスにあった聖地のことが記されている。そこには、インホテップのいやしを求めて、あらゆるところから人々がやってきたそうである。人々は彼に祈り、捧げ物をしてからこの聖地で一夜を過ごした。古代エジプト版ルルドの泉である。寝ている間に、神であるインホテップが人々の夢に現れて、彼らをいやしたと言われている。ヨセフと夢の間には関連があったのだろうか？創世記 37：8 「すると兄弟たちは彼に向かって、『あなたはほんとうにわたしたちの王になるのか。あなたは実際わたしたちを治めるのか』と言って、彼の夢とその言葉のゆえにますます彼を憎んだ」。これは、彼と彼の兄たちが収穫物の束を結えていたという夢であった。彼らの束が立ち上がって、ヨセフの束を拝んだ夢であり、この夢も、兄弟たちがヨセフをねたんだ原因となった。創世記 37：20 「・・・さあ、彼を殺して穴に投げ入れ、悪い獣が彼を食ったと言おう。そして彼の夢がどうなるか見よう」。

インホテップの知恵

聖書の記述は、ヨセフの知恵についても語っている。創世記 41：39 「またパロはヨセフに言った、『神がこれを皆あなたに示された。あなたのようにさとく賢い者はない』」。

インホテップが、その知恵の故に崇められていたという証拠もある。かなり後の時代になって書かれたいくつかの碑文において、インホテップの言葉が引用されている。例えば、

「インホテップ王の墓歌」に、「私は、インホテップとハルデデフの言葉を聞いた・・・」というくだりがある。さらに続けて、彼らの「格言」は後世にまで語り継がれていると説明している。これまで、インホテップの業績についての記録は何も見つかっていないが、「プタホテップ」のものであるとされている賢者の格言がいくつか存在する。プタホテップは、第五王朝のファラオの大臣としてのみ知られている。但し、「プタホテップ」として知られている人は五人おり、どれも第五王朝のファラオの大臣であり、ヘリオポリスまたは「オン」の祭司であった。証拠を見る限りでは、インホテップの後に、大臣たちの間で彼を模倣することが流行し、これら後世の大臣たちは、インホテップの功績や書き物の手柄としている。

ここで、ある想定をしてみよう。ヨセフが格言集を残したと想定してみよう。無論、神の靈感を受けて、である。彼は王から寵愛されていたので、これらの格言集は、律法学者や民衆から尊ばれるようになった。賢人としての彼の名声はエジプト中に広まり、格言集は知恵の規範となっていった。彼の大いなる知恵は、アブラハムの神から来ていたことを私たちは知っている。ヨセフは神からの知恵を周囲の人たちに伝えただろうと考える方が、自然ではないだろうか。事実、彼がそうしたことを聖書は明言している。詩篇 105：17 「また彼らの前にひとりをつかわされた。すなわち売られて奴隷となったヨセフである」。105：20-22 「王は人をつかわして彼を解き放ち、民のつかさは彼に自由を与えた。王はその家のつかさとしてその所有をことごとくつかさどらせ、その心のままに君たちを教えさせ、長老たちに知恵を授けさせた」。

ヨセフの死後、他の者たちが彼の格言を複製し、自分自身の手柄にした。恐らく、自分たちに好都合なように多少の色づけもしたのであろう。これらの格言が世代から世代へと語り継がれるにつれて、インホテップのものであるとされる代わりに、プタホテップすなわちエジプトの創造神「プタハの声」とされたのであろう。何千年もの後に、「プタホテップ〔プタハの声〕の教え」の写しと称するパピルス紙がいくつか見つかった。プタホテップの書き物には、事の経緯を正確に示している二つの声明がある。これらの写本の最後に、彼の死が迫り、110 歳もの年齢に達し、王からは祖先たちにも勝る榮譽を受けたことが述べ

られている。つまり、彼ほどファラオから栄誉を授けられた人物はいないということである。そして、ヨセフが 110 歳で死去したことは聖書の記述から分かっている。これらの写本を検証すると、もっと面白くなってくる。これらの格言は、ソロモンの箴言のように始まっている。つまり、息子に対する教えのように書かれており、聞く者には有益であるが、軽んじる者は災いであるとの忠告を与えている。ヨセフの知恵の源は、ソロモンの知恵の源と同一であることを覚えられたい。そして、これら二つが酷似していることは否定し難い。ソロモンは多くの箴言〔格言〕に通じていたと言われている。列王記上 4：30-32「ソロモンの知恵は東の人々の知恵とエジプトのすべての知恵にまさった。彼はすべての人よりも賢く・・・その名声は周囲のすべての国々に聞こえた。彼はまた箴言三千を説いた。またその歌は一千五首あった」。古代人たちが、「箴言〔格言〕」について無知でなかったことを、上の聖句は示している。これらすべての格言はソロモンが作ったものか、それとも祖先たちから語り継がれたものであるかは分かっていない。多くの古代文明に格言集が残っているが、ソロモンが靈感によって記し、今日、聖書に登場するものだけが、古代エジプトの「知恵集」と酷似しているのである。そして、それらはインホテップにまでさかのぼることができるのである。これは、ソロモンが古代エジプト人を模倣したわけではなく、ヨセフを含む彼の祖先たちに同様の知恵を与えられた神が、ソロモンに知恵をお与えになったということである。

プタホテップの言葉と聖書をいくつか比べてみることにする。

- 1) 「自分の知識を誇ってはならない」。
- 箴言 3：5, 7「自分の知識にたよってはならない。・・・自分を見て賢いと思っ
てはならない。主を恐れて、悪を離れよ」。
- 2) 「人は明日の計画を立てるが、明日がどうなるかは知らない」。
- 箴言 27：1「あすのことを誇ってはならない。一日のうちに何が起こるかを知ることができないからだ」。
- 3) 「友の人格を探ろうと思うならば、尋問するのではなく、彼に近づいて、二人だけで論じ合いなさい」。

箴言 25：9「隣り人と争う〔論争する〕ことがあるならば、ただその人と争え。他人の秘密をもらしてはならない」。

- 4) 「もしもあなたが、一人の大物から別の人に遣わされた、信任を受けた人であるならば、あなたを遣わした人の本質を守り、彼が語ったとおりにメッセージを伝えよ」。

箴言 25：13「忠実な使者はこれをつかわす者にとって、刈り入れの日に冷やかな雪があるようだ。よくその主人の心を喜ばせる〔主人の魂を清涼にするからだ—欽定訳〕」。

- 5) 「偉人に対しては、彼にとって役に立つことを教えよ」。

箴言 9：9「知恵ある者に教訓を受けよ。彼はますます知恵を得る。正しい者を教えよ。彼は学に進む」。

詩篇や伝道の書にも、類似点があるのを見つけた。

- 6) 「もしもすべての言葉が伝えられるならば、彼らはその地で滅びることがない」。

詩篇 78：5-7「主はあかしをヤコブのうちにたて、おきてをイスラエルのうちに定めて、その子孫に教うべきことをわれらの先祖たちに命じられた。これは次の代に生まれる子孫がこれを知り、みずから起こって、そのまた子孫にこれを伝え、彼らをして神に望みをおき、神のみわざを忘れず、その戒めを守らせるためである」。

- 7) 「食欲という悪徳、すなわちこの治療法のない重い病を警戒せよ」。

伝道 6：2「すなわち神は富と、財産と、誉とを人に与えて、その心に慕うものを、一つも欠けることのないようにされる。しかし神は、その人に、これを持つことを許されないので、他人がこれを持つようになる。これは空である。悪しき病である」。

- 8) 「もしもあなたが主人の会議に列席するほどの人物であるならば、卓越することに心を注げ。まくし立てるよりも沈黙する方がよい。・・・知識によって尊敬を得よ」。

伝道 9：17「静かに聞かれる知者の言葉は、愚かな者のつかさたる者の叫びにまさる」。

- 9) 「知恵ある者はその知恵によって、偉大

な者はその偉業によって知られる。その心と舌は一致する」。

箴言 18:21「死と生とは舌に支配される。これを愛する者はその実を食べる」。

- 10) 「もしもあなたが、あなたよりも偉い人の食卓に招かれた客の一人であるなら、あなたの前に出された物を食べよ」。

箴言 23：1－3「治める人と共に座して食事するとき、あなたの前にあるものを、よくわきまえ、あなたがもし食をたしなむ者であるならば、あなたののどに刀をあてよ。そのごちそうをむさぼり食べてはならない・・・」。

神は、エジプトのヨセフを用いて、約束の地に連れ帰される用意ができるまで、「アブラハムの子孫」が成長するための安全な避難所をエジプトに設けさせられた。そして、異教に囲まれたエジプトに滞在している間、神はご自分の真理に触れさせないまま、ご自分の民やエジプト人を放って置かれるようなことはなかった。ヨセフがエジプトの政治家たちにも教えていた事実をも、聖書は記録している。このような知恵がエジプト人たちに啓示され、ヨセフの語録集をまねた賢人らによって代々語り継がれていったわけだが、700年以上も後に、同様の「知恵の言葉」がイスラエルの子孫によって記録され、箴言や伝道の書、詩篇を通して、私たちに伝えられたのである。無論、ヨセフの知恵は彼自身が創作したものではなく、ソロモンやダビデ、またすべての神の民が持っていた知恵と同様、神の靈感によって与えられたものであった。

ジョセールの統治期間の後期に 任命されたインホテップ

インホテップに関して、他にも聖書の記述と合致する点がいくつかある。ヨセフを抜擢したファラオ〔パロ〕の統治期間は不明であるが、夢の解き明かしをすべく、ヨセフが王の前に現れる以前、彼がすでに王として治めていたことは明らかである。また、インホテップがジョセールの統治の始めから大臣を務めてはいなかったという証拠があり、事実、ジョセールの初期の記念碑には、インホテップのことが全く言及されていない。ベイト・カラフにあるジョセールの墓を設計したのは、インホテップではなかった。恐らくその墓は、ジョセールが王となった直後に建てられたの

であろう。サッカラのような前の王朝のものと似ているこの初期の墓からは、ジョセールと彼の母親の名前、それから数多くの高官たちの名前が記されたつぼが見つかっている。そこに、インホテップの名は記されておらず、当時、彼がまだ任命されていなかったことを示している。通常は、ファラオが王位に君臨するや否や、高官らを任命した。

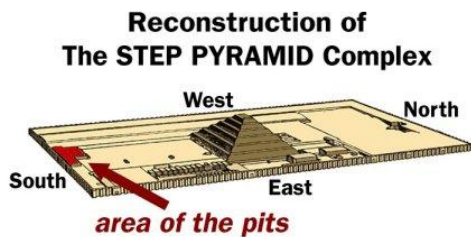
入手可能な情報はどれも、インホテップとヨセフが同一人物である可能性を色濃く示している。例えば、ある碑文に載っている称号から、彼が王家の出身ではなく、一代で立身出世を果たした人物であったことが分かる。通常、ファラオの息子が大臣に任命されていた頃に、これは異例であった。

インホテップは、「ヘリオポリス」聖書的に「オンの祭司」でもあった。ヨセフの舅は、「オンの祭司」であったことが分かる。創世記 41：45「パロはヨセフの名を、ザフナテ・パネアと呼び、オンの祭司ポテペラの娘アセナテを妻として彼に与えた。ヨセフはエジプトの国を巡った」。アセナテは結婚適齢期に達していたので、当時、彼女の父は若くても四十代であったはずである。古代エジプトにおいて、平均寿命は五十歳を少し過ぎたくらいであった。死ぬ時か、老いて病に臥した時、特に義理の息子がヨセフのようにファラオの高官であった場合は、祭司の義理の息子がその地位を継いだ。もしもヨセフが「オンの祭司」になっていたとしたら、それは神への不忠を意味したのではないだろうか？断じてそうではない。ファラオはヨセフの神の力を認めており、たとえエジプト人は偶像礼拝を続けていたにせよ、ヨセフは自らの神への信仰を隠すことなく、真の神への忠誠を保ち続けた。「オンの祭司」とは、その称号が特定の異教神の祭司であったというわけではなく、高い榮譽を受けた地位にあるか、政治的な要職に就いていたことを表していた。

インホテップ、最初の ピラミッドの建立者

インホテップは、最初に建てられたピラミッドを設計し、レンガではなく石を使って建てた人物とされている。古代エジプト史を調べると、数々の証拠から、エジプトが超大国となったのはジョセールの治世であったことが分かる。結局エジプトは、飢きんの間に周囲の国々に穀物を売ることで、莫大な富を築

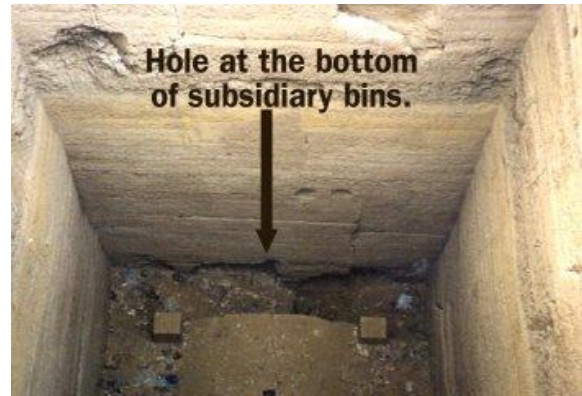
き上げたのであった。聖書によれば、7年の豊作期間に、民衆はヨセフの賢明な指導の下、周囲のあらゆる国々に穀物を販売するための巨大な管理センターを組織したのであった。将来のファラオの墓地を含む、広大な施設が建てられたが、その主な用途は、穀物の貯蔵であった。このセンターへの入り口は一つしかなく、貯蔵庫には外付けの入り口があった。サッカラにある階段式ピラミッドについて、しばらく論じてみたい。



穀物貯蔵庫

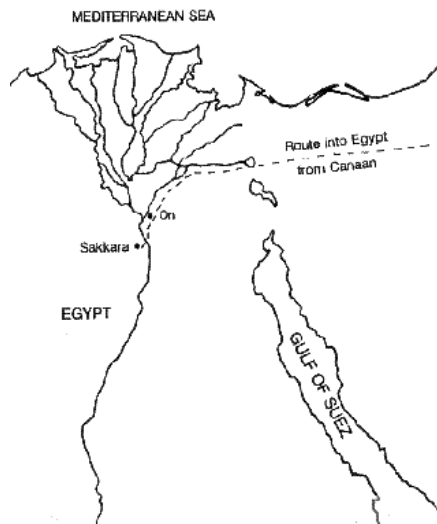
最初に建てられた階段式ピラミッドの周囲にあり、その複合体である壁は、非常に美しく精巧である。東壁の南端にある主要出入口から入ると、40本の支柱（左右20本ずつ）が並んでいる長い廊下が続いている。各支柱は、垂直の壁からなっている主壁につながっていて、支柱と支柱の間には小部屋が作られている。この柱廊を出てまっすぐ歩くと、地中深くまで伸びている、いくつもの巨大な穴蔵に行き当たる。これらの穴蔵は非常に大きいもので、いかなる墓地や古墳よりも大きい。中心にはすべての穴蔵に通じるトンネルがあり、そのトンネルは地上の高さにまで伸びている。さらに、穴底に達する階段がある。このために、これらは墓地として建てられたものではないことが分かる。もし墓にする目的であったとしたら、これほど大きなものにする必要はなかったはずである。これらの大規模な建造物は、地上よりもかなり上まで伸びており、墓のように隠された造りにはなっていない。古代エジプト人たちは、来世のために死者を手厚く、高価な品物と一緒に葬った。彼らは墓泥棒の被害を最も恐れていた。故に、これらの巨大な穴蔵は別の目的で建てられたことが分かるのである。また、他の古代都市においてこのように大きな貯蔵庫が発見された時には、迷わず貯蔵庫と認められるのであ

るが、エジプトに限っては、学者らはすべての発掘物を「墓」と認定したがる傾向がある。しかし、ピラミッドの下にあるファラオの墓地には、王家が来世のために設けたおそろいの倉があり、これらの貯蔵庫では穀類や他の食物が見つかっている。



聖書には、ヨセフが役人を任命して、エジプト中の都市で穀物の収集と貯蔵の管理をさせたとの記述がある。創世記 41:34-35「パロはこうして国中に監督を置き、その七年の豊作のうちに、エジプトの国の産物の五分の一を取り、続いて来る良い年々のすべての食糧を彼らに集めさせ、穀物を食糧として、パロの手で町々にたくわえ守らせなさい」。ヨセフは高官または総理大臣として任命される前に、ファラオにこの計画を提案している。ファラオが一人でエジプト中を駆け巡り、穀物の収集と貯蔵の監督をすることは不可能なので、ヨセフがこの計画を履行したことだろう。また、いよいよ飢饉がやって来てエジプト人たちが食糧を叫び求めたときに、彼らはヨセフのところへ行って、彼の指示に従うように言われている。つまり穀物の配給は、ヨセフが取り仕切っていたということである。創世記 41:55-56「やがてエジプト全国が飢えた時、民はパロに食物を叫び求めた。そこでパロはすべてのエジプトびとに言った。『ヨセフのもとに行き、彼の言うようにせよ』。ききんが地の全面にあつたので、ヨセフはすべての穀倉を開いて、エジプトびとに売った。ききんはますますエジプトの国に激しくなった」。外国人が穀物を買いに来たときも、彼らは直接ヨセフのもとへ行ったようである。創世記 42:6「ときにヨセフは国のつかさであつて、国のすべての民に穀物売ることをしていた。ヨセフの兄弟たちはきて、地にひれ伏し、彼を拝した」。ヨセフの兄たちは、直接ヨセフのところへやってきた。彼らがやってき

たのは、恐らくサッカラであっただろうと、私たちは考えている。このみごとな貯蔵庫の遺跡が見つかった場所である。ここでジョセールは、穀物貯蔵庫でしかあり得ない、極めて広大な 11 もの穴蔵を建設させたのである。



すべての都市に、その地域で集めた穀物の貯蔵所があったが、このサッカラの施設には、信じられないほど多量の穀物が蓄えられたと考えられる。実に、一つの町に必要な量をはるかに超えていた。先述したように、この施設の入口付近に、40 もの小部屋があり、各部屋は一人の人間がやっと入れる程度の大きさであった。各部屋には役人がいて、穀物を買いに来た人たちから代金を受け取っていたと考えられる。恐らく、各国からの客に対応するため、様々な言語を話す人を配置したのであろう。無論、エジプト学者らは、これらの小部屋は彫像を置くために設けられたと考えるが、遺跡の中に台座は一つも見つからない。これは非常に重要なポイントである。なぜなら、これらの彫像は、必ず台座の上に設置されたからである。彫像は取り除かれたとしても、台座は残されたはずである。

穴蔵のデザインは印象的である。全部で 11 あり、一つの穴蔵だけに、底まで伸びた非常に精巧な作りの階段がある。すべての穴蔵は、地下トンネルでつながっている。貯蔵物でいっぱいにされた穴蔵の上部は、材木や石で閉じられた。そして、穀物を取り出すには、一つの入り口が使われていたと考えられ、実際、穴蔵の外から中に入る入口は一つしかない。さらに、これらの穴蔵の底からは穀物が見つかった。エジプト学者らは、死者が埋葬されたときに一緒に穀物が置かれたと説明する。が、これらの穴蔵に死者が埋葬された証

拠は見つかっていない。

これは、聖書の記述と合致するだろうか？ヨセフの兄たちが、穀物を買求めにやってきたとき、彼らはヨセフと語り、穀物の代金を支払っている。彼らが穀物を受け取ったとき、それはすでに袋に入れられていた。創世記 42:25-27「そしてヨセフは人々に命じて、彼らの袋に穀物を満たし、めいめいの銀を袋に返し、道中の食料を与えさせた。ヨセフはこのように彼らにした。彼らは穀物をロバに負わせてそこを去った。そのひとりが宿で、ロバに飼葉をやるため袋をあけて見ると、袋の口に自分の銀があった」。

サッカラの施設は実に独特である。このようなものは、かつてどこにも見つかっていない。ウィリアム・ヘイズは、次のように描いている。「それ自体が都市のようなもので、単一体として計画、執行され、近くにあるムカタムの丘から持ってきた、りっぱな白い石灰岩で建てられている」（エジプトの王権、第一巻 60 ページ）。エジプト学者らは、自分たちが見つけたものをすべて「王家の墓」として片付けてしまう傾向があり、この施設自体、そのように呼んでいる。しかし実際のところ、どの特徴を取っても、それはある大きな活動のセンターであったことを物語っている。またそのように解釈する方が、ヨセフの物語と調和するわけである。ヨセフの兄たちが穀物を求めにやってきたとき、彼らは、穀物の分配を監督していたヨセフと顔を合わせることになる。彼らはどこに来ていたのか？無論、穀物が貯蔵されていたところであり、そこにヨセフが居合わせたわけである。あれほどの大量の穀物を貯蔵するには、この施設に見つかっているような、巨大な貯蔵所を要したはずである。そしてそれと同じ場所に、穀物の代金を支払うための一角がもうけられたと考えるのが妥当ではないだろうか。これはビジネス〔商売〕であり、経営のセンターがあったはずである。この施設に関しては多くの事が書かれているが、ほとんどの場合、そのたぐいまれなことに触れながらも、説明がなされていない。事実、エジプト人にこれらの穴蔵について尋ねても、分からないとしか答えないであろう。

ある古代歴史学者らは、ピラミッドがかつてヨセフの穀物貯蔵庫であると信じられていた事実について書いている。そして恐らく、この言い伝えは、穀物が貯蔵されていた同じ施設内に、ヨセフが最初のピラミッドを設計

したという事実に基づいている。いずれにしても、階段式ピラミッドの施設について専門家がどのような解説をしようとも、状況証拠はヨセフの物語と完全に一致するのである。そしてそれは、エジプトで最も保存状態の良い遺跡の一つであり、明らかに極めて古い構造になっている。これは、御言葉の正確性を実証する重要な証拠であるため、神ご自身が保存して下さったからに他ならない。

インホテップの墓を探索

ヨセフはエジプトで死に、遺体には防腐処理が施されてから棺に納められたことを、私たちは聖書から知ることができる。創世記 50:26「こうしてヨセフは百十歳で死んだ。彼らはこれに薬を塗り、棺に納めて、エジプトに置いた」。ところが出エジプトの時、イスラエルの子らは彼の骨を携えて行った。出エジプト 13:19「そのときモーセはヨセフの遺骸を携えていた。ヨセフが、『神は必ずあなたがたを顧みられるであろう。そのとき、あなたがたは、わたしの遺骸を携えて、ここから上って行かなければならない』と言って、イスラエルの人々に固く誓わせたからである」。これらの聖句から、ヨセフはエジプトで王家の墓に葬られた可能性がうかがえるが、真実は分からない。ところでインホテップの墓は、エジプト学者らにとって大きな謎となっている。とにかく彼らは、インホテップの墓がサッカラのどこかにあるはずだとの確信はあっても、それを探し当てていない。エジプト学にとってインホテップの存在は極めて重要であり、ジル・カミールの書いたサッカラのガイドブックにおいて、「インホテップの墓」は見つかっていないにもかかわらず、件名標目に列挙されている。

医者としてのインホテップを論じるにあたっては、インホテップを拜んでいやすられるために、メンフィスに程近い場所にやってきた人々のことが記してあるギリシア語の文献について先述した。階段式ピラミッドのすぐ近くにインホテップの墓があることを期待して、発掘者らが探索を続けていたとき、地下トンネルの途方もない迷路を発見した。そこには、ミイラ化したアイビスという鳥や雄牛が（別々の通路で）数多く見つかっている。そこで見つかった碑文や硬貨は、人々がいやされるためそこにやってきていたことを示して

いる。これこそ、ギリシア人が書き記したところの、インホテップの聖所である。

「医学の神」としてインホテップが神格化された後、彼には「アイビスの支配者」という称号が与えられた。そしてこれが、迷路とインホテップを結びつける接点になったわけである。何千ものミイラ化されたアイビスが、インホテップへのささげ物として持ち込まれ、これらのトンネル内に置かれた。後になって、これらの通路が、からの棺を納めてある埋葬室にまで伸びている穴につながっていることが分かった。また、この部屋が、壊れた石の器でいっぱいになった第二室を含む、巨大なマスタバ（古代エジプトの石やレンガで造った墳墓）に属していることも分かった。そして墓の貯納室には、ジョセールの刻印をほどこした陶製の止栓が見つかっている。これは、ジョセールの治世のある重要な人物を納めた墓であったという決定的な証拠である。壁に碑文はなく、石棺はからであった。しかし、さらに重要なのは、このマスタバが東向きではなく、北向きになっている点である。通常、ピラミッドやマスタバは東向きになっている。これはジョセールの時代に在世したある著名人の墓に違いないが、石棺はからであった。

ここにやってきたある匿名のギリシア人による碑文も発見されており、彼がどのように治癒されたかが語られている。それは夢を通しての治癒であった。様々な証拠は、ヨセフの物語という驚くべき聖書の記録が真実であったことを、雄弁に物語っている。

エジプト、歴史と聖書

ロン・ワイアット

神は何度も、人間の営みに介入されたことがあった。欽定訳聖書は、忠実にこれらの事件を記録している。そして、これらの歴史的な事件についての理解を深めてくれる考古学的遺物を発見することは、いつでもわくわくさせられる経験である。聖書の歴史を裏付けるような「世俗の」記録が多く見つかっているが、これらの一部が、学者ら（進化論者／無神論者）によって意図的になきものにされたか隠されているというのは、悲しむべき事実である。これらの学者たちは、考古学的証拠を自分たちの欺瞞的な目的にそうように操作している。第18王朝後期に作成され、古代エジプトの初代から18代目までのすべての王の

リストが載っているトリノ・パピルスが、19世紀に神殿の遺跡の中で見つかった。サルデーニャの王はそれを注意深く保存し、トリノの学者らに翻訳を依頼した。それは完全な状態で見つかったのであるが、学者らはパピルスのほとんどを破壊し、あるいは隠してしまった。なぜならそれは、王朝が長く続いたと考えられていた従来のエジプト史を覆すことが分かったからである。損なわれたパピルスの言い訳のために、彼らは、サルデーニャの王がそれを梱包せずに送りつけてきたせいだといって彼を非難した。パレルモ石にも同様のリストが記されており、多くの学者らは石の見えない部分を引用しているが、認められていない研究者は石のほんの断片しか見ることが許されていない。砕け具合から見て、石は明らかに最近になって意図的に壊されたのである。

B.A.R.のある主だった考古学者が、私にこう言ったことがある。「ロン、君の問題は、そこに何かあるのかを知ろうとして発掘を行うことだ。まずそこに何々があると決め込んでから、見つかった物に自身の解釈をほどこせばいいんだ」。その事を妻に話したら、彼女は私の言う事を信じようとしなかった。考古学者の実態について学者本人が語ったのだから、はなはだショッキングであった。

預言の中のエジプト

聖書は預言を通して、いにしえから時の終わりに至るまでの諸国や諸都市の歴史を描いている。その一つが、イザヤ書 19 章である。これは、エジプトの地についての預言である。読者はこの章を読む前に、聖霊の啓発を父なる神に求められたい。この章から、聖句をいくつか見ていくことにする。

イザヤ 19: 4 「わたしはエジプトびとをきびしい主人の手に渡す、荒々しい王が彼らを治めると、主、万軍の主は言われる」。紀元後 7 世紀頃、エジプトはマホメットとその部下たちの支配下にあった。マホメットほど、残忍な人物として歴史の舞台に登場した人はまれである。彼は、彼の新しい神、アラーを受け入れることを拒み、マホメット自身をアラーの唯一の預言者として受け入れることを拒んだ人たちが容赦なく殺すよう命じた。その結果、正直で誠実な人たちが殺害され、不正直な嘘つきどもが生き残ってしまった。

次の聖句は、水道管理システムの賢い利用

と開発が途絶えてしまったことについて述べている。このシステムは何世紀にもわたり、農業の繁栄を生み出し、魚の干物が市場に出回るきっかけを作り、古代の世界で用いられたエジプト・パピルスの生産にも貢献してきた。イザヤ 19: 5-10 「ナイルの水はつき、川はかれてかわく。・・・ナイルの支流はややに減ってかわき、葦とよしとは枯れはてる。小川のほとりにあるパピルス、小川のほとりにまいた物はことごとく枯れ、散らされて、うせ去る。漁夫は嘆き、すべて小川につりをたれる者は悲しみ、網を水のおもてにうつ者は衰える。練った麻で物を造る者と、白布を織る者は恥じる。また、水門と魚の池を造るすべての者は、そのために目的がくじかれる」〔一部欽定訳〕。当時エジプトは、すべての実用的な目的から原始的な方法へと逆行し、低級な国と化してしまっただからである。

イスラム勢力の衰退後、エジプトは、フランスやイギリスのようなくつかの強国の属国となった。それからソビエト連邦の影響下に陥り、イスラエルに対抗して、いくつかの無益で破壊的な戦争に参戦したが、うまくいったためしはない。イザヤ 19: 17 「ユダの地は、エジプトびとに恐れられ、ユダについて語り告げることを聞くエジプトびとはみな、万軍の主がエジプトびとにむかって定められた計りごとのゆえに恐れる」。国連が介入しなければ、1967-73 年の間に、エジプトは「ユダの地」〔イスラエル〕に占領されていたであろう。

イザヤ 19: 18 「その日、エジプトの地にカナンの国ことばを語り、また万軍の主に誓いを立てる五つの町があり、その中の一つは滅亡の町〔欽定訳〕ととなえられる」。この聖句は、ヘブル語に近く、古代カナン語と密接に関係しているアラビア語が、エジプトとその中にある五つの主要都市の第一公用語となった事実を反映している。第一王朝以来エジプトの首都であったメンフィスは、イスラムが占領した時に滅び、現在のカイロの南端に当たるナイルの東岸に新たな首都エルフスタットが創建された。イスラム教徒たちはギザ・サッカラ台地を略奪し、ピラミッドや神殿から大理石や研磨石灰岩をはぎとって、自分たちのモスクや宮殿を建てるために用いた。

19 節は、現代に関係している最も重要な箇所であり、私たちが御言葉の信ぴょう性を証明するために主が用意なされた、驚くべき考古学的発見にも関わっている。イザヤ 19: 19

「その日、エジプトの国の中に主をまつ一つの祭壇があり、その境に主をまつ一つの柱がある」。ここに言及されている祭壇について論じてみよう。まず、「祭壇」という用語は、必ずしもいけにえが捧げられる何かを意味するものではない。ヨシュア 22：26－28「われわれは言いました、『さあ、われわれは一つの祭壇を築こう。はん祭のためではなく、また犠牲のためでもなく、ただあなたがたと、われわれとの間、およびわれわれの後の子孫の間に、証拠とならせ・・・るためである。』・・・またわれわれは言いました、『のちの日に、われわれ、またわれわれの子孫が、もしそのようなことを言われるならば、その時、われわれは言おう、われわれの先祖が造った主の祭壇の型をごらんください。これははん祭のためではなく、また犠牲のためでもなく、あなたがたと、われわれとの間の証拠である』」。ある種の記念物も祭壇と呼ばれることがあったのである。

今日もサッカラには、階段式ピラミッドがある。これは、エジプト第三王朝のファラオであったジョセールの命を受け、イムホテップの設計また監督下で建てられた非常に印象的な施設の遺物である。階段は石で建設されているが、それらの石には、泥のレンガが詰められた。それから、ピラミッドの表面全体は、防風、防水効果のある研磨石灰岩の層で仕上げられた。今日の階段形ではなく、いわゆる「ピラミッド」形に似ている。



ところがイスラムの侵攻により、彼らはその悪名高いやり方を実践した。彼らはこのピラミッドの研磨石灰岩の外皮をはぎとり、自分たちのモスクや他の建物に使った。その結果、レンガの詰め物がむき出しになったわけである。泥のレンガは長期間の風雨に極めて弱いため、この詰め物は、時が経つにつれて崩壊したり、宝物を探しに来た略奪者らによ

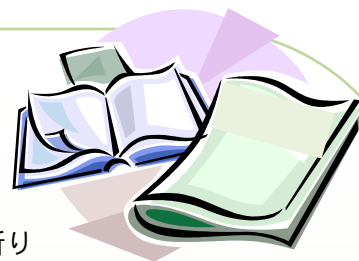
って穴があげられたり、投げ捨てられたりした。何も見つかることなく、これらのレンガの遺物は、19から20世紀にかけて発掘された時に運び去られてしまった。農民たちが肥料として使うために、これらのレンガを運び去ったことを記した歴史的文献もある。階段式の外観だけが残り、それは階段こそないが、メソポタミアのジグラットに似た祭壇の形が現在見られる。ヨセフは神と極めて親密な関係にあり、天啓を受けてこの記念物を建設したと思われる。ジョセールは自らの誉のために建設を命じたのかもしれないが、彼の動機はどうであれ、それはエジプトの地における主の祭壇となり、イスラエルが成長、発展して大いなる国家となるための安全な避難所を神が備えられた地にあつて、穀物貯蔵庫の位置を示す目印となつたのであつた。

だが、境界の柱はどこにあつたのだろうか？ ソロモン王は、イスラエル人が渡つた紅海の両岸に碑文の刻まれた柱を立てさせ、アラビアのシナイ山のふもとに宮を建てさせた。これは、紀元前10世紀のことであつた。私たちは、1978－84年の間にそれらの物を見つけた。エジプト側の柱は、1978年（イスラエルがシナイを支配していた頃）に私たちが見つけたときには海の中に落ちていた。私たちはこの事をイスラエル軍に報告し、それが見つかった場所のすぐ近くに彼らがそれをコンクリートで復元した。それはまさしく、エジプトの地の境界に立てられた。それから間もなくして、シナイはエジプトに返還されたからである。

古代エジプトにおける合板〔ベニヤ板〕

先に言及した書物の中に、古代エジプトでは合板、つまりベニヤ板が使用されていたという記述がある。「・・・棺の遺物の内側は、現代のベニヤ板に取って代わる六枚の薄い合板が使われている」。ノアの箱舟の甲板にも、合板〔ベニヤ板〕が使われていた。私たちはその見本を持っており、事実として確認済みである。古代エジプト人たちが同様の材料を用いていたということは、ノアの子孫たちが世界中に分かれ住むようになったころ、この知識が一緒に伝えられたことを証明している。洪水後、どれほどのテクノロジーが失われたかについては、私たちの想像をはるかに超えているであろう。

～感謝・お礼～



小さいながら「現代の真理」の出版を続けていますが、主は不思議に祝福して下さいました。アンカーを読んで下さる皆様への祈りとお支えを心から感謝いたします。

カラープリンターが欲しいと思っていた時にある方々はそのために献金をしてくださり、手に入れることができました。

この度は遠慮がちに高価ではありましたが、「高性能のカラー印刷機と電動製本機がほしいなあ」と考えていました。そうしたら思いもよらないところから献金が集まり買うことができました。

「神のなされることは皆その時にかなって美しい」伝道 3:11

「悩みの時に、家や土地はなんの役にも立たなくなる。その時、彼らは怒り狂った群衆から逃げなければならない。そしてその時、彼らの財産は、現代の真理の働きを推進するために用いることができないからである。聖徒たちが、悩みの時がやってくる前にすべての邪魔物を切り捨て、犠牲によって神と契約を結ぶことが、神のみこころであることを、わたしは示された。もし彼らが、財産を祭壇の上において、なすべき務めについて、熱心に神に祈り求めるならば、神は、これらのものをいつ処理すべきかを教えてください。そうすれば、彼らは悩みの時に自由になり、負担となる邪魔物がなくなる。

もし彼らが、財産に執着し、自分たちの義務について主に尋ねることをしないならば、主は彼らに義務を知らされない。そして、彼らは財産を持っていることを許される。そして、悩みの時に、それは彼らを押しつぶす山のように彼らの前にあらわれるだろう。……

わたしは、犠牲が増加せず減っていき、燃えつきるのを見た。また、神はすべての神の民が同じ時に、財産を処分することを望まれないのを見た。もし彼らが喜んで聞き従うことを望むならば、神は必要に応じて、いつ、またどれだけ売べきかを示してくださいのである。過去において、再臨運動を支えるために、財産を処分するように要求された人々があった。またその反面、必要な時が来るまで財産を持っていることを許された人々もある。働きが必要とする時が来るならば、売ることが彼らの義務なのである」初代 127-128。

「我々がいかなる値段でも物を売ることのできない時代が来るであろう。…今こそ働きをおしすすめる機会である」5T152。



RISO カラー印刷機



電動製本機

新刊 「新約プロテスタントの聖書」 弥永邦昭著

「公認本文」から翻訳した新約聖書が出版されました。公認本文=Texus Receptus というのは、「大多数本文」「標準本文」とも言われ、ワルデンセス、宗教改革者たちがこれをもとにして聖書を翻訳したものです。1611年に英語に翻訳された欽定訳(KJV)もこのギリシャ語本文が使われました。現代訳聖書はほとんどバチカン・シナイ写本を改訂に改訂を重ねたものから翻訳されています。聖書研究をするにあたってできるだけ純粋なものに近づく必要があります。先生のご尽力を感謝します。ぜひこの聖書を比較研究の助けとしていただきたいと願うものです。 価格 1,200円(税込)

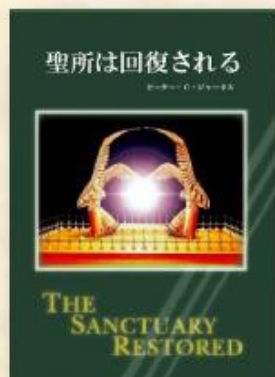
書籍案内

聖所は回復される

ピーター・C・ジャーネス著

聖所の清めと回復は、再臨信仰の土台であり基礎である。この理解に万事がかかっている。再臨信徒の最優先すべき、最重要の大真理である。神のみ業完成のカギがここにある。SDA必読の書。

価格：800円(税込)



最終時代の諸事件

エレン・G・ホワイト著

終末の兆しが見えてきた。預言の光で世界の諸事件をみるとその意味がよくわかる。全文霊感の言葉を収録している。「私の民は知識がないために滅ぼされる」ことがないように、愛の警告に耳を傾けよう。

価格：1,200円(税込)



書籍の年始特別セール

～2009年1月末日のご注文まで～

スタディバイブル

標準型 スナップ付き
黒・赤

9,900円→5,000円



食事と食物に関する勧告

エレン・G・ホワイト著

2,900円→1,500円



健やかな生き方

エレン・G・ホワイト著

1,200円→600円



心と体の8つの秘訣

健康改革の基礎、8原則をわかりやすく、イラスト入りで紹介。伝道用パンフレット。

価格：100円(税込)



2008年秋季セミナーの収録集

“聖所は回復される” 金城重博 “最終時代の諸事件”

●DVD【10枚】価格：¥4,000(税込)

※DVDは「聖所は回復される」の講義のみ収録

●CD【28枚】価格：¥5,600(税込)

●MP3【DVD-DATA1枚】価格：¥2,240(税込)

※CDとMP3は2008年秋季セミナー全体を収録



Anchor

www.srministry.com

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471

TEL: 0980-56-2783 FAX: 0980-56-2881

Email: contact@srministry.com www.srministry.com

郵便振込番号: 02080-0-12121 サンライズミニストリー

サンライズ・ミニストリー刊行誌 「アンカー」の目的と編集指針

Published By Sunrise Ministry Okinawa JAPAN

我々は次のことを信じてアンカーを出版している。

1. 我々 SDA の働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 第三天使の使命は人々をキリスト再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖いを受ける。(初代文集 414, 5, 7)
4. 我々は神のご計画されたこの特別な祝福、特別な経験を担い続けてきた。特に1888年以来(2RH26, 1890年)

5. ダニエル書8: 14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同等の霊感を与えられた預言者である。(ISM36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(鐘)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証(預言の霊)等である。(初代文集 417, 1T 300)
8. アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信によって、150年も時が延

ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待たせられる。再臨のみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今日の、義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたいと思う。

9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、激しい震いの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。